

令和2年度

調査研究助成事業報告書

- ◆ 東京都立石神井特別支援学校 P T A
- ◆ 千葉県立市原特別支援学校 P T A

全国特別支援学校知的障害教育校 P T A 連合会

SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした 学校・地域・他校と連携した取り組み

東京都立石神井特別支援学校 P T A

令和3年2月15日

令和2年度「調査研究助成事業」報告書

東京都立石神井特別支援学校

PTA会長 金子 崇

研究テーマ

SDGs(持続可能な開発目標)をテーマにした学校・地域・他校と連携した取り組み

本校の紹介

本校は東京都練馬区・西東京市・武蔵野市と3つの区と市に学区域のある小・中学部の知的障害特別支援学校で、閑静な住宅地に位置している。令和2年2月現在 196 名の児童・生徒が在籍している。



写真1 本校外観

本校とICT活用

本校は平成27年度から東京都のICT活用推進事業指定校としてタブレット端末(iPad)の活用を積極的に進めてきている。

今年度の臨時休業期間中は、YouTubeによる学習動画の配信やZOOMを活用したオンライン授業に全校で取り組み、その様子は読売新聞(2020/6/19付 朝刊16面)の特集「教育ルネサンス オンラインで学ぶ」にも紹介されている。

SDGsが研究テーマになった理由

後述するSDGsはまだまだ一般の認知度は低く、日本でも様々なメディアで取り上げられ始めている段階である。本校では2019年から中学部でSDGsをテーマにした授業に取り組み始め、次に学校全体として取り組めることは何かを考えていく段階にあった。そこで、本研究事業のテーマをSDGsとし、PTAと連携することで学校関係者全員にその理念を知ってもらうことを目標に、まずはSDGsとは何かについて広く知ってもらい、その中で自分たちができることに取り組んでいくこととした。

SDGsとは？

2015年に国連で採択されたSDGsとは Sustainable Development Goals の事で、持続可能な開発目標という意味である(国際連合広報センター「2030 アジェンダ」)。2030年までに「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向け、世界の解決すべき課題が17にまとめられた全世界共通の目標となっている(図1)。



図1 SDGs(持続可能な開発目標)

研究概要

新しい学習指導要領の総則にも「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手」となる児童・生徒を育成することが示されており、現在ではSDGsをテーマにした授業実践や学校での取り組み、また企業や地域から発信された取り組みが最近とても注目されてきている。

令和2年10月には政府が温暖化ガスの排出量を2050年に実質ゼロにする目標を掲げ、今後持続可能な社会を実現するための施策が様々な形で加速していくことが想定されている。SDGsには「すべての人の人権が尊重され、尊厳をもち、平等に、潜在能力を発揮できるようにする」ことが謳われており、障害のある人もない人もそれぞれが様々な可能性を発揮できるダイバーシティ社会を実現することも大きな目標の1つである。

これまでのPTAと学校の取り組みとしては、令和元年12月にテラサイクルジャパン合同会社とライオン株式会社が連携したプログラムである「歯ブラシ回収プログラム」に参加を始めたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校での実物の回収は断念することとなった。また例年7月にPTA主催で行っている「夏祭り」を、例年秋に開催しているフリーマーケットと統合し、地元の商店街の方々と一緒に「秋祭り SDGsフェスティバル」として大々的に行う計画も検討していたが、これもやむなく断念することになった。

そのため、本校が取り組んでいるICTを積極的に活用し、オンラインによる取り組みを行うとともに、SDGsの理解啓発のために新たにオリジナルキャラクターを制作し、絵やマンガで分かりやすくSDGsを伝える通信を全校に配布していくこととした。

本研究では、持続可能な社会システム論を専門とされ、SDGsに関わる講演や研修会の講師としても御活躍されている石井雅章先生(神田外語大学言語メディア教育研究センター長)をアドバイザーにお招きし、PTAと学校で連携する取り組みを行なった。当初の計画からは様々な変更を余儀なくされたが、その過程で新たなアイデアや取り組みも生まれ、今後につながる研究となったのではないかと考えている。

具体的な取り組みとして、(1)保護者向けのSDGs通信の発行、(2)ICTを活用し学校と家庭で連携したSDGsの活動、(3)SDGsをテーマにした保護者向け学習講座の動画配信、(4)中学部生徒による保護者向けのSDGs啓発チラシの発行、(5)SDGsをテーマにした他校との授業連携とPTA同士の連携、の5つの活動に主に取り組んだ。

以下その内容について詳しく紹介をしていくこととする。

(1) 保護者向けのSDGs通信の発行

アドバイザーである石井雅章先生のSDGsオンライン講座が練馬地区を対象に開催され、本校からPTA会長の金子と指導教諭の海老沢が参加した。そこでの講義内容を参考にしながら、PTAから定期的にSDGs通信の発行を行なった。児童・生徒や保護者が親しみをもてるよう、女子美術大学附属高等学校でイラストの勉強に取り組んでいる山口寿々音さんに協力してもらい、オリジナルのキャラクター(「SDGs学園」のかつぶし君、やなぎもと校長、岡村先生、ヤーリー書記長、なべともちゃん、やましろさん)を描いてもらった。毎回このキャラクターが通信に登場し、SDGsの概要や理念、具体的なアクション等について解説を行なった(図2)。



図2 SDGs通信第1

第1号では、「10年後の2030年はどんな世界に住んでいたいか」というテーマで保護者と児童・生徒向けにアンケートを行った。児童・生徒には「ぼくたち、わたしたちが考える2030年の世界を描いてね!」というプリントを配布し、家族で取り組んでもらった。

「10年後の世界は、テクノロジーが飛躍的に発達し、子供が運転できる車が開発されるのではないかと、そうしたらおじいちゃんとおばあちゃんを乗せてあげたい」という絵があったり(写真2)、「今よりもっと笑顔の多い幸せな社会になってほしい」という願いが書かれていたり(写真3)、「ペットボトルと魚が描かれ、海の中も生き物がにこにこしている世界になってほしい」というメッセージが書かれていたり(写真4)するなど、いろいろな家族から未来への様々な思いを込めたアンケートが集まった。

他にも児童・生徒から、

・「そのときのわたしは 24 才です。2030 年はりっぱな大人になり、世界が平和にくらせるような 2030 年が来てほしいです。」

・「いまはないたべもののおみせができてほしいな」

・「海洋プラスチック問題については『脱プラ』『リサイクル』『紙化』が進み解決されると予測しています。5G(第5世代移動通信システム)の普及に伴い6G(第6世代移動通信システム)の運用が開始されると予測しています。4K・8K テレビが普及され、地上波放送で 4K・8K テレビ放送が見られるようになります。車を走行中に CO2(二酸化炭素)や NOx(窒素酸化物)の排出が無く環境に優しい電気自動車(EV)の普及率は徐々に上がっていき、公道でも普通に乘れるようになります。」

という平和への願いやテクノロジーへの期待が込められたメッセージなどがあつた。

保護者からは、

・「一家に 1 台、家族と同じような役割を持つ(話せてなんでもできる)ロボットがいるようになるのではないかと考えています！」

・「温暖化がストップして感染症の流行もなく、世界の人々が平穏に暮らしている、争い事もなく平和な世界。10 年後はそんな世界でありますように。」

・「障がいのある人も自立してゆたかに楽しく生活している世界」

・「2030 年息子は 19 才になります。私の思い描く 2030 年は、息子のように話したくても言葉にできない人の考えを代わりに言葉に変換してくれる何かがあれば、今よりもっと幸せになれる人は増えるのではと考えます。息子の幸せが増えることが私の願いです。この幸せが増えることが親の願いです。2030 年に今より笑顔で過ごせる人が世界に増えている。そんな世界であってほしいと思います。」

・「PTAでSDGsを推進していただきありがとうございます」

というメッセージが寄せられた。

SDGsをテーマにすることで、これからの世界がよりよいものになるように考える機会をもつことができた。

たくさんの願いやメッセージが込められたアンケートの中から、PTAとして特に7つを選び、「2030年の世界 表彰式」として賞を授与した(写真5、6、7、8)。集められた全てのアンケートはPTAの掲示板にて紹介をすることとした。

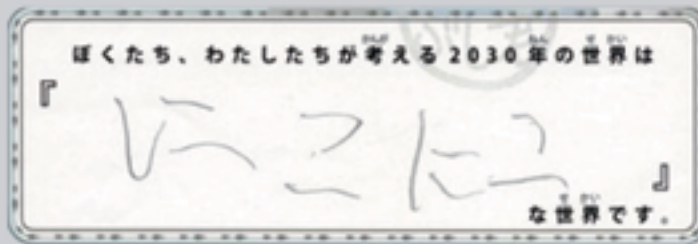


みんなが書いてくれた
2030年の世界とても素敵な
ばかりだったよ!! ありがとうね!!
たくさんあるので全部はムリなので
ぼくたちが選んだ2030年の世界を
紹介するね!!

SDGs
やめず!
2030年の世界
表彰式
ひょうしょうしき

■ かつぶし賞

工田



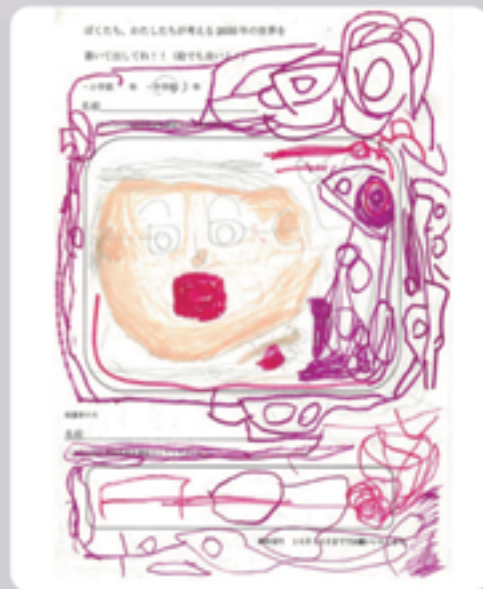
シンプルでいいね!!
「にこにこ」だけでSDGsの
すべてを表しているよ!!



■ なべとも賞

中学 3年生 H・Cさん

わく おさ
枠に収まらないダイナミックで
アーティステックな作品ですわ!
いろつが
色使いもとても素敵ですわ!!



■ ヤーリー賞

中学 2年生 K・R君

保護者様

海洋プラスチック問題の解決は、リサイクルの徹底が鍵と見られていますが、6G(第六世代移動通信システム)の普及に伴い6G(第六世代移動通信システム)の運用開始と予測されています。また、K・8Kテレビが普及すれば地上波放送で4K・8Kテレビ放送が見られるようになります。車を走行中にCO₂(二酸化炭素)やNO_x(窒素酸化物)の排出が無く環境に優しい電気自動車(EV)の普及率は徐々に上がっていき、普及が促進されるようになります。

海洋プラスチック問題に電気自動車

6Gについても言及しておりとてもクレバーです。

君がいればシンギュラリティ到来も2045年よりも早く達成できSDGsもクリアできるでしょう。

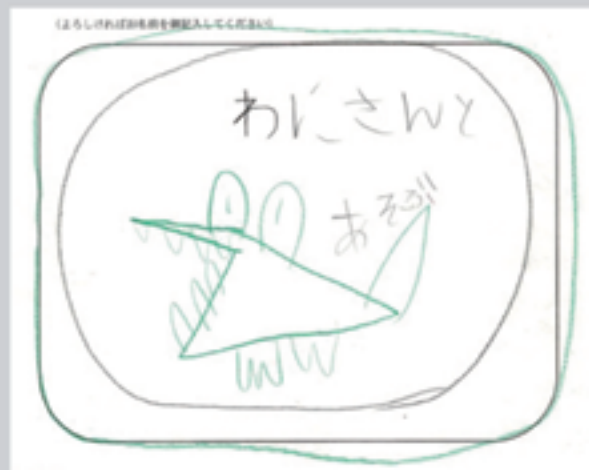
1審1台、審判員による役割分担のロボットのように
(観望、観望もどき)なるのではないかと考えてます!



■ 山城賞

小学 1年生 M・T君

わたしも わにさんとあそびたいです……



東京都立石神井特別支援学校 PTA

写真6 ヤーリー賞 やましろ賞

■ 岡村先生賞

中学 2年生 T・Sさん

きっとステキな大人おとなになっていますよ
たのしみです♪



そのときの、わたしは
24才です。
2030年は、ツバな大人
になり、世界が平和に
くらすような2030年が
来てほしいです。

■ やなぎもと校長賞

小学 6年生 K・Mさん

保護者様

いまはないたべものは
どんな味あじがするのかな？
想像そうぞうしただけで
よだれがでますね(^^)



いまはないたべもの
おみせができて
ほしいな

こげとく
くらた、りま

現在ありマスIT電子化・機械化・ロボット化へ進む。
1600年時業へあり思う。日常生活を便利にすると思う
心、時代について行くは、うま...と不安あり。
と、これ、便利と平和は世界のため、という思う。

そして SDGs大賞は...



■ SDGs大賞

小学 3年生 M・R君

あつとうでき えびお えびお いる
圧倒的な笑顔の絵の数と色で
SDGsを見事に表現しています！
これ以外はないでしょう！！
おめでとう！！



ここに載せられなかった他の力作は、学校のPTAの
掲示板で見られるようになっているので、ぜひ見てね！！
みんなありがとうね！！SDGsを実現しよう！！



東京都立石神井特別支援学校 PTA

写真8 SDGs大賞

(2) ICT を活用し学校と家庭で連携したSDGsの取り組み

中学部各学年の総合的な学習の時間にSDGsをテーマにした授業を行なった。2 学期に 2 つの単元(①分別ゴミについて、②サステナブル・ラベルについて)を設定し、SDGsについてスライドや動画で学習をした後に、分別ゴミのマーク、サステナブル・ラベルをそれぞれ品物から見つけて写真を撮る活動に取り組んだ(図3)。

まず、SDGsについてのイメージをもつために、「Home:家」(国際連合広報センター)を視聴し、私たちの住む地球はみんなの家であること、その地球について私たちができることを考えよう、という導入を行なった(写真9)。



図3 授業で使用したスライド画面



写真9 「Home」の視聴

①分別ゴミのマークを見つけよう

次に NHK for School「よろしく！ファンファン」の「ごみのゆくえ」を視聴し、普段捨てているゴミがどのような処理をされているのか、分別することがなぜ大切なのか等について学習を進めた。令和2年7月からプラスチック製レジ袋の有料化が小売店に義務づけられ、身近な場面でもプラスチックゴミについて気付く機会が増えていることもあり、国際連合広報センターの「空飛ぶレジ袋」の動画も紹介し、私たちができることについて考えながら学習を進めていった。

ゴミについて学んだ後に、「様々な品物から分別ゴミを見つけ、タブレット端末で写真に撮ろう」という活動に1人ずつ取り組んだ。タブレット端末で撮影する活動はどの生徒もすぐに取り組むことができ、撮影を通して分別ゴミのマークを意識することができた(写真10)。

授業の最後に「おうちでもみつけて撮影してみてください」「写真をとったらチームズにアップしてください」という説明を行い、分別ゴミのマークを各家庭でも見つけてもらうよう協力を依頼した(図4、5)。



写真10 分別ゴミのマーク撮影場面

小学部では各学級でスライドを提示しながら、児童向けに説明を行なった。PTAからもSDGs通信を発行し、保護者向けに協力を依頼した(図6)。



図4 授業で使用したスライド画面1



図5 授業で使用したスライド画面2



図6 SDGs通信による協力依頼

写真のデータをクラウドにアップしてもらい取り組みを行なった背景としては、今年度から都立学校に導入された統合型学習支援サービス「Microsoft Teams」により、児童・生徒一人一人にIDが付与されたことで、家庭からサインインし、学校の「チーム」にアクセスすることが可能になったことがあげられる。

コロナ禍でリアルな物品等を学校で集めることは難しくなったものの、デジタルデータを介した活動はオンラインで取り組むことができる。その利点を活用し、PTAと学校で連携した取り組みを行うことができた。Teamsの各学年のチャンネルに「SDGs」のチャンネルを作成し、データはそのチャンネルにアップしてもらいよう協力を依頼した。

Teams アプリのインストール、ID とパスワードによるサインイン、写真データの投稿と様々な操作や手順が必要になる取り組みだったが、各学年の保護者が協力してくれ、家庭で分別ゴミのマークを見つけ、写真を撮影して「SDGs」のチャンネルに投稿をしてくれた。PTAからは、「SDGs学園」のキャラクターが「マークの投稿ありがとうございます！」とお礼の返信をする形でやりとりを行なった(図 7、8)。



図7 Teams を活用した分別ゴミのマークを見つける取り組み1



図8 Teams を活用した分別ゴミのマークを見つける取り組み2

②サステナブル・ラベルを見つけよう

サステナブル・ラベルとは、「持続可能な原材料調達や環境・社会的配慮、生物多様性等につながるさまざまな国際認証ラベル」(一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会)のことである(図9)。

私たちは、身の回りの生活用品や食品を普段何気なく購入していることが多いが、調達や生産方法が見えない品物が、実は環境破壊や労働環境の悪化につながっていることがある。

サステナブル・ラベルは、原産地から私たちの手に渡るまでのトレーサビリティ(商品の生産から消費までの過程を追跡する事)を重視し、資源調達や生産現場でも管理された責任ある原材料調達のもとに生産されていることを認証しているラベルである。

分野は多岐にわたり、森(木材・紙製品)、有機(オーガニック)農産物、オーガニックコットン(繊維)、ダウン&フェザー(動物福祉)、海(水産物)、フェアトレードなど、持続可能な社会を実現するための様々な品物がある。

近年この認証を自社の商品に積極的に取り入れる企業や小売店が増え、身近な店舗でも見かけることが多くなってきている。



図9 サステナブル・ラベルの一覧 (日本サステナブル・ラベル協会)

令和2年10月には、一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)主催の「サステナブル・ライフスタイル宣言 2020 シンポジウム ―ユースと考える、サステナブルな未来のためのトランスフォーメーション―」がオンラインで開催され、本校PTA会長の金子、指導教諭の海老沢が参加したことで、日本サステナブル・ラベル協会の山口真奈美代表理事に御挨拶することができ、その後本校での取り組みの進め方についてアドバイスをいただいたり、後述する保護者向け学習講座の動画配信に講師として登壇していただいたりすることができた。

日本サステナブル・ラベル協会のホームページには、「買い物は、未来への投票」というメッセージが記されている。持続可能な社会を実現するために、私たちの買い物行動が小さなアクションの1つになる。消費者庁も「エシカル消費」(「消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行う」こと)を呼びかけており、身近なことから参加できるSDGsの取り組みの1つとなっている。

中学部各学年の総合的な学習の時間では、分別ゴミに続き、このサステナブル・ラベルを題材として取り上げて授業を行なった。サステナブル・ラベルやエシカル消費については、東京都の制作した動画「ちょっと考えて、ぐっという未来 エシカル消費」「Re-Think 海ごみ 見直そう プラスチックとの付き合い方」や、フェアトレードラベルジャパンのアニメーション「3分で分かるフェアトレード Understand Fairtrade in 3 minutes」等を紹介し、具体的に1つ1つのラベルについて説明を行なった(写真11)。



写真11 サステナブル・ラベルについての授業場面

それぞれのサステナブル・ラベルについて学んだ後に、分別ゴミの際の活動と同様に「様々な品物からサステナブル・ラベルを見つけ、タブレット端末で写真に撮ろう」という活動

に1人ずつ取り組んだ。

分別ゴミに比べ、サステナブル・ラベルは品物ごとに様々な箇所に付いていることが多く、ラベルの大きさもまちまちだったが、生徒たちは試行錯誤をしながらラベルを見つけ、撮影に取り組むことができた(写真12、13)。



写真12 サステナブル・ラベルの撮影場面1



写真13 サステナブル・ラベルの撮影場面2

授業の最後には「おうちでもみつけて撮影してみてください」「写真をとったらチームズにアップしてください」という説明を行い、サステナブル・ラベルを各家庭でも見つけてもらうよう協力を依頼した。

小学部では各学級でスライドを提示しながら、児童向けに説明を行なった。PTAからもSDGs通信を発行し、保護者向けに協力を依頼した(図10)。



図10 SDGs通信による協力依頼

分別ゴミに引き続き、積極的にサステナブル・ラベルを見つけて撮影し、Teams に投稿してくれる家庭の協力が得られた。PTAからは、「SDGs学園」のキャラクターが「ラベルの投稿ありがとうございます！」とお礼の返信をする形でやりとりを行なった(図11、12)。



図11 Teams を活用したサステナブル・ラベルを見つける取り組み1



図12 Teams を活用したサステナブル・ラベルを見つける取り組み2

森林保護の認証ラベルについては、学校の給食で提供されている牛乳にも付いており、授業で学習した生徒がそれを見つけて教員に「先生、ラベル見つけたよー。」と嬉しそうに報告に来るというエピソードがあった(写真14)。

また、別のある生徒は、授業で学習したサステナブル・ラベルの内容を保護者に何とか伝えようとし、家庭にあった品物にラベルがあることに気付いて、家族と一緒に意識をすることができたというエピソードもあった。

普段あまり意識したことのないサステナブル・ラベルに様々な背景やストーリーがあり、それを見つけたり選択したりすることで、SDGsへの小さなアクションにつながることで、こうしたエピソードからもうかがえる。



写真14 給食で提供されている牛乳に付いている認証ラベル (PEFC)

(3) SDGsをテーマにした保護者向け学習講座の動画配信

保護者と教職員を対象にした学習会を実際に開催することが難しくなったため、本校の YouTube による限定公開で学習講座の動画を配信することに取り組んだ。テーマは、「SDGsについて」「サステナブル・ラベルについて」「地球温暖化について」とし、講師をオンラインでお招きして、PTA会長の金子と指導教諭の海老沢が聞き手となり、ZOOM 上でレコーディングを行なった。編集した動画を YouTube にアップロードし、動画のリンクをメール配信システム等でお知らせする形で学習講座を開設する予定である(写真 15、16)。

講師として、「SDGsについて」は、アドバイザーの石井雅章准教授、「サステナブル・ラベルについて」は、日本サステナブル・ラベル協会の山口真奈美代表理事、「地球温暖化について」は慶應義塾大学環境情報学部1年の露木志奈さんをお招きした。

露木さんは、バリ島にある世界最先端のエコスクール「グリーンスクール」で高校時代を過ごし、2020 年から日本全国で地球温暖化に関する講演活動を行われている。持続可能な世界を創る未来のリーダーとして現在注目されている若者の 1 人である。(先生の学校、2020)

動画にはかつぶし君のオリジナルテーマソング「SDGsだ！かつぶし君！」を挿入し、SDGsにより親しみをもってもらえるようにした。



写真 15 保護者向け学習講座の動画（一部） 1



写真 16 保護者向け学習講座の動画（一部） 2

(4) 中学部生徒による保護者向けのSDGs啓発チラシの作成

現在、中学部3年の学習グループ5名の生徒は、昨年度からSDGsをテーマにしたプロジェクト型学習に取り組んできている(海老沢、2020)。その中でタブレット端末を活用し、スライドや映像などの様々なアウトプットを行なっている。

今回はサステナブル・ラベルを家庭で見つけてもらう取り組みへの協力依頼の一環として、「おうちで取り組んでもらうためにはどんな呼びかけ方を考えたらいいか」をテーマにチラシのデザインを行なった。

タブレット端末のアプリ「Keynote」を使用し、サステナブル・ラベルと「SDGs学園」のキャラクターを取り入れながら、5名の生徒がそれぞれデザインを工夫して作成を行なった(写真 16、17)。



写真 16 保護者向けSDGs啓発チラシ作成の様子1



写真 17 保護者向けSDGs啓発チラシ作成の様子2

授業では、NHK for School「アクティブ 10 プロのプロセス」から「ポスターの作り方」を視聴し、伝わるデザインについて学習したり、「メディアタイムズ」の「どこまでが OK？ 著作権」を視聴して、自分のオリジナルの表現を生かすことについて理解を進めたりした。

それぞれの生徒が1つのサステナブル・ラベルを取り上げ、「Keynote」でチラシとして完成させた。後日PTAからのSDGs通信の1つとして、保護者への配布を行うことを予定している(図 13、14)。



図 13 中学部生徒が作成した保護者向けのSDGs啓発チラシ1



図 14 中学部生徒が作成した保護者向けのSDGs啓発チラシ2

(5) SDGsをテーマにした他校との授業連携とPTA同士の連携

地域や他校との連携の一環として、同じ石神井エリアにある私立の特別支援学校旭出学園に呼びかけ、SDGsをテーマにした連携を行った。本校のSDGs通信を旭出学園に提供して保護者や教員向けに配布を依頼したり、本校から教材の提供や共有を行い、SDGをテーマにした授業が開始されたりしている。

旭出学園専攻科では、3名の生徒を対象に、SDGsに関連する動画を視聴することから学習が始められた。授業を受けた生徒からは、「地球温暖化」についての言及があり、「街をきれいにする」「飢餓から救いたい」「外国では赤ちゃんのうちに死んでしまう国がある」「貧しい国に募金をしたい」というような感想が生まれ、自分たちの都合で好きなように暮らしていくと地球はどうなってしまうのかということ全員で考える授業が行われた。「地球が爆発してしまう」「地球が汚れてしまう」といった発言があり、とても興味や関心のある様子が見られた(写真 18)。

さらに、サステナブル・ラベルについても紹介を行ない、家庭でラベルのついた商品を探すことを課題とした授業にも取り組んでいる。それぞれの生徒が、家庭で見つけたサステナブルラベルの商品を持ち寄り、発表を行なった。生徒の興味・関心は高く、登校すると嬉しそうに「見つけました。」と見せてくれる生徒もいたということである。

授業は引き続き行われているが、今後どのようにしてSDGsを広めていきたいかを生徒に考えてもらう過程の中で、生徒からは「家族にも協力してもらいたい」「他学部の生徒にも知ってもらいたい」「卒業した母校にも伝えたい」等の意見が出された。具体的にどのようにして広めたいかという質問には、「ポスターを作る」という意見がすぐにまとまったため、今後は啓発ポスターの制作、校内、保護者、福祉園、他校への掲示等を計画している。

本校とは、今後サステナブル・ラベルについての学習進度に合わせ、生徒間のオンライン交流と情報共有を行なっていく予定である。また、PTA同士の連携も視野に入れて活動を進めていきたい。



写真 18 旭出学園でのSDGsの授業の様子

今後の活動予定

- ①SDGsをテーマにした保護者向け学習講座の動画配信を2月下旬から3月上旬までに配信予定である。
- ②SDGsの理念や取り組みがどの程度保護者や教職員に浸透したかを把握し、今後の活動へのフィードバックを得るためのアンケート調査を3月上旬から中旬までに行う予定である。
- ③本研究で配布したプリントに加えて、アンケートの調査結果やかつぶし君のマンガを入れた新たな冊子を制作中であり、7月下旬から8月上旬までに配布予定である。
- ④オリジナルキャラクターかつぶし君のLINEスタンプを作成し、限定配布を計画している。また、動画配信に使用した「SDGsだ！かつぶし君！」のテーマソングに振付を制作し、学校の授業でSDGsに取り組む際に取り入れられるよう展開を検討している。また、「SDGsだ！かつぶし君！」のミュージッククリップを制作しYouTubeで公開していく予定である。
- ⑤本校のPTAでは毎年2回、練馬区立石神井台小学校及び練馬区立大泉第二中学校との交流教育連絡会を開いているが(本年度は新型コロナウイルス感染症のため中止となっている)、この2校とも連携を行い、SDGs通信の配布依頼やSDGsをテーマにした授業や活動に取り組むことを検討していきたい。SDGsの理念や取り組みを幅広く共有することで、地域でのアクションにつながる取り組みへと展開できるようにしたい。
- ⑥SDGsの学習に積極的に取り組んでいる中高生たちがメンバーとなっているSDGs for School ユース東京、一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会が主催している「サステナブル・ラベルスクール」というオンラインの学習会

が定期的開催されており、本校や他校と連携した取り組みをSDGs for School の中高生たちとの連携へと発展させることができないか可能性を検討しているところである。

⑦来年度の開催が可能であれば、本校で「秋祭り SDGsフェスティバル」を開催し、幅広く理解啓発活動を行う。また、2019 年代々木公園にて開催された「アースディ東京 2019」に出展されたSDGs for School のブースなどと連携し、本校PTAでも今後アースディへの参加ができないか可能性を検討している。

⑧本校の保護者から集まったサステナブル・ラベルの写真を、SDGsについて積極的に学習を進めている高校生主体の有志団体「えこま(えこまを創る/Ecological Market)」の Twitter サイトに投稿し、理解啓発活動の一環として協力ができないか検討中である。

⑨今年度の取り組みについては、カリキュラム・マネジメントの実践事例として、「学習情報研究」2021 年 5 月号(公益財団法人学習情報研究センター)に本校海老沢指導教諭が寄稿を予定している。

なお、今後の活動予定については、取り組んだ成果を全国知的障害特別支援学校PTA連合会研究大会の発表の際に報告をしていきたいと考えている。

まとめ

本研究では、持続可能な社会の実現に向けて、SDGsの基本理念を学校全体で共有し、2030 年に向けての願いや思いを改めて考える機会をもつと共に、自分たちにできる身近な活動を実際に行う取り組みへと展開させた。学校の授業とも連携し、授業で取り組んだ活動を家庭でも親子一緒に取り組めるよう工夫したり、オンデマンド動画による学習講座を開設し、SDGsの理念や具体的なアクションが幅広く浸透するよう、PTAと学校で連携した取り組みを行ったりすることができた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初計画していたリアルな取り組みはすべて難しくなってしまったが、ICTを活用したオンラインやオンデマンドの活動に切り替えて取り組みを進めた。

また近隣の学校でも、SDGsをテーマにした授業がスタートし、生徒同士のオンラインでの交流や両校のPTAの連携を進めていく予定である。

「誰も取り残さない」社会の実現を目指し、SDGsを共有のテーマとして様々なステイクホルダーが連携を図っていくことで、障害のある人もない人もそれぞれが様々な可能性を発揮できる社会が実現できるよう、継続して取り組みを進めていきたい。

参考文献

国際連合広報センター「2030 アジェンダ」

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

国際連合広報センター「Home:家」 <https://youtu.be/8eJD0BuNN1Y>

NHK for School「ごみのゆくえ | よろしく! ファンファン」

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005120473_00000

国際連合広報センター「空飛ぶレジ袋」 https://youtu.be/BCrUUp_trcQ

一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 <https://jsl.life>

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(WWF ジャパン)「サステナブル・ライフスタイル宣言 2020」

シンポジウム 開催報告 <https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4475.html>

消費者庁「エシカル消費とは」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/about/

東京都「ちょっと考えて、ぐっといい未来 エシカル消費(YouTube)」東京暮らし WEB

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/douga/>

東京都「Re-Think 海ごみ 見直そう プラスチックとの付き合い方」東京動画

<https://tokyodouga.jp/Lj7BvEZwxTk.html>

フェアトレードラベルジャパン「3分で分かるフェアトレード Understand Fairtrade in 3 minutes」

<https://youtu.be/2NlAsvOsPIQ>

先生の学校「大学を休学し、中高生への講演を始めた 19 歳の環境活動家が伝える、今地球で起こっていること」

20201222 <https://www.sensei-no-gakkou.com/article/sp0011/>

海老沢 穰「課題にチームで取り組んだプロジェクト型学習」『実践障害児教育』2020 年 5 月号、学研プラス、2020、p22-23

NHK for School「ポスターの作り方 | アクティブ 10 プロのプロセス」

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180398_00000

NHK for School「どこまでが OK? 著作権 | メディアタイムズ」

https://www2.nhk.or.jp/school/movie/bangumi.cgi?das_id=D0005180321_00000

えこま(えこまを創る/Ecological Market) <https://twitter.com/ecomakankyou>

海老沢 穰「PTAと連携したSDGsの学習 ―タブレット端末を活用して―」『学習情報研究』2021 年 5 月号掲載予定、公益財団法人学習情報研究センター、2021

添付資料:保護者向けに配布したSDGs通信一覧



こんにちは！
ぼく、かつぶし君！です！
SDGs 学園の生徒会で、
SDGs を広める
活動をしています！

SDGs やります！ Vol.1

SDGs は「エスディー・ジーズ」って読みます。
みなさん！ SDGs って何だと思えますか？

まずは何もしらべないで（←ここ大事！）

10年後の2030年にどんなすてきな世界になっているかな〜と？
自由にソウゾウしてください！！

みんながソウゾウした世界になるために、今のぼくたち、わたしたちが
できる事は何だろう？ どうすれば、素晴らしい世界になるのだろうか？
と...いっしょに考えているのが SDGs です。

ちなみに僕かつぶし君！は『おかかおにぎり食べ放題！！おどって
歌って楽しんでいる』世界になっているとソウゾウしているよ！
みんなの考える2030年の世界を教えてね！絵でも良いよ！

ぼくたち、わたしたちが考える2030年の世界は

『

』
な世界です。

SDGs やります! Vol.1

保護者の皆様

当初は夏祭りを拡大して秋祭りを実施し、PTAを中心に地域・他校との連携をしたり、本校で実施している歯ブラシ回収プログラムに関するブースをつくらして「楽しく参加できるSDGs」の研究発表をする計画をしておりました。

しかしながら、新型コロナウイルスのため上記の計画を行うことが困難になってしまい、コロナ禍の中でできる事を考え、多くの人に「SDGsとは？何か？」を広める」ことを研究発表としました。

「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。持続可能な開発目標とは、「17の目標」と「169の！ターゲット」で構成されています。

これから児童・生徒と一緒にSDGsとは何か？を理解していきましょう！
まずは保護者の皆様にアンケートのご協力をお願いしたいと思います！！

本やインターネットでSDGsの事を調べずに、10年後の2030年はどんな世界に住んでいたいのか？こんな世界でありたい。あるべき姿を自由に想像してください。

ぼくたち、わたしたちが考える2030年の世界は

『

』

な世界です。

SDGsが やります! Vol.2

えすでいじいず
SDGsってなんだろう? 1

みんな! 2030年の世界をたくさん書いてくれてありがとう!!
どれもとても素敵な世界で2030年になるのが楽しみだねー!



かつぶし君



ヤーリー書記長



岡村先生

みんなが想像した世界になるためには
何をしたら良いか? わかるかな?
これを教えてくれるのがSDGsなんだよ

SDGsには17個のゴールがあります。(別のプリントをみてね)
この17個のゴールをクリアするために何をすれば良いのか?
を教えてくれるのが169個のターゲット(目標)になります。

169個の目標をやって、17個のゴールを達成
すればみんなが描いた素敵な世界になるよ!!

でも逆を言うと17個のゴールを
クリアできない169個のターゲットをやらないと
今の世界が続かない...かもしれないです...



なべともちゃん

ちょっと怖いです...

これからもぼくらが住める

「ずっと続く」世界をつくるために世界中
の人達が考えたのがSDGsなんだよ



やましろさん

SDGs! Vol.2

やります!

えすでいじいず
SDGsってなんだろう? 1



「SDGs」とは「Sustainable Development Goals」（持続可能な開発目標）の事で、目指すべき世界である持続可能な世界を実現するために17個のゴールと169個の具体的な目標が示されています。

17個のゴールとはカラフルなアイコンで示されたジャンルの事ですが、実際にはこのゴールよりも169個の具体的なターゲットの方が大切になります。

この169個のターゲットは世界中の700万人以上の関係者から各地域、各分野の現状を意見収集やデータから「今の世界がどうなっているか？」に基づいて設定されています。



(国連広報センターh p)

このレポートで「現在、世界が目標に対してどういう状況になっているか？」が数字と図により把握でき、レポートをフォローしながらSDGsの達成が進められています。

SDGs 利ます! Vol.3

えすでいじいず SDGsってなんだろう? 2



岡村先生

前回の話した事を覚えているかな？



かつぶし君

はい！！17のゴールをクリアできない169のターゲットをやらないと今の世界が続かないかもしれないそうならないためにSDGsがありまーす！！



でもいまでも世界が良くなるようにみんな、がんばっていたとおもいますが？



なべもちゃん

そうみんな、世界がゆたかになるように、良くなるように頑張っているけど、良くするじゃだめなんだよ！かつぶし君！わかるかな？



ヤマモト書記長

2030年にみんなが描いた素敵な世界にするには…



世界を良くする…ではなく世界を作り変える必要があります。



そう！！世界を作り変えるには想像した世界からみて「今、何が足りないのか？」を考えてみよう！！



2030年の世界からの今の世界でやらないといけないことを考える事がとても大切になります。これをバックキャストिंगといいます。

なるほど！！だからみんなに2030年の世界を想像してもらったんだね！！



SDGs! Vol.3

やります!

えすでいじいず SDGsってなんだろう? 2



まずはご自分が10年前に何をしていたのか?を思い出してください。
そして、2020年の今は何をしているのか?を改めて考えてください。

2010年から2020年の10年間をボタンと倒すと2030年になります。
この2030年というのがSDGsの持続可能な開発目標のポイントになります。
2030年は10年後ですので、この10年という間隔を感じてもらいたくて10年前を思い出していただきました。

SDGsとは2016年から2030年までの国際社会が目指す目標群、目標の束になります。2015年に国連総会において「2030アジェンダ」「持続可能な開発目標」として全会一致で採択されました。すでに5年が経過しており、あとの10年後の目標としてSDGsがあります。

SDGsは将来のあるべき姿「持続可能な世界」からのバックキャストिंगによる手法で考えられています。

将来こういう状況でありたい、あるべき姿としての持続可能な世界という考え方。これを実現するために2030年にはこういうことを達成しなければならない。これがSDGsの目標となっています。

「2030年の目標を達成するために2020年のわたしたちは何をすべきか?」を考えることです。

持続可能な世界を実現するためにはこういうことを解決していかなければならないというゴールの束としてSDGsがあります。

SDGs! Vol.4

えすでいじいず
SDGsってなんだろう？3



ヤーリー書記長

ところでSDGsってどこから来たの？

「2030 アジェンダ」という文章があります。
実はSDGsはその中に書かれています。



かつぶし君



岡村先生

そう！前は「世界を良くする・・・ではなく世界を作り変える！必要がある」
って学んだよね。この事も「2030 アジェンダ」に書いてあり、人と地球
そしてゆたかになるための行動計画が書かれているんだよ。

なんかむずかしいなあ～

「2030 アジェンダ」の行動計画って簡単にいうと
どういことが書いてあるの？



なべともちゃん

ポイントを3つにまとめると・・・

- ・人間が人間らしく生きていける
- ・僕たちのすんでいる地球の環境を守る
- ・みんなを豊かにさせる

この3つのポイントを同時に実現しようという事が書いてあります。



そう！同時に実現するにはもちろん世界が平和でなくちゃだめだし、3つを
同時に実現することで平和な世界になっているはずだよ。そしてSDGsを
達成するには国だけ、大人たちだけが頑張っても実現できないんだよ。



そっか！よーし！！

僕たちも一緒になってSDGsをやっぺいこう！
みんな僕と一緒に素敵な世界を作っぺいこうよ！！

SDGs! Vol.4

やります!

えすでいじいず
SDGsってなんだろう? 3

SDGsは単独ではなく、「2030 アジェンダ」という文書の中で示されています。そのタイトルが Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development (私たちの世界を変革する、持続可能な開発のための2030 行動計画) になります。

Transforming our world とは『現状の世界は今までのやり方では「持続可能」ではない。』だから「改善ではなく変革が必要である。」ということから Transforming という単語を使用しております。

つまり、もはや改善では間に合わなく、土台となっている仕組み自体を考えなおし、作り直す必要がある。そして、そのため関係性とシステムの変容がもとめられています。

関係性とシステムの変容とは「私と人」「私と自然」「私と社会」などいろいろな関係性を持続可能な世界を作るために、関係を結びなおす。仕組みとか制度などのシステムを持続可能な形に作り直すことです。

これが、サステナブル デベロップメント「持続可能な開発を実現するための2030 アジェンダ」と理解しておいてください。



SDGs! Vol.4 やっほ!

えすでいじいず
SDGsってなんだろう？3

アジェンダとSDGs「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。」のこの1文で始まる前文は主題であるSDGsの達成を目指す決意が記されています。

アジェンダ前文に書かれている内容は5つのPで始まる単語、人間 People・地球 Planet・繁栄 Prosperity・平和 Peace パートナシップ Partnership があります。



- ・人間（社会面） 人間が人間の尊厳をもって生きていく
- ・地球（環境面） 私たちの命の基盤である環境を守る
- ・繁栄（経済面） 豊かさをいかに実現するか？

この3つを同時に実現するのが2030アジェンダとSDGsのポイントになります。

同時実現するためには土台として平和が成り立っていないといけません。またこの3つを同時実現することで平和が成り立つ。そのためには企業だけ、政府だけが頑張るというだけでは実現できないので、さまざまな、あらゆる人とのパートナーシップによってそれを実現しようとする。これが5Pです。前文をつけますので是非、読んでください。



SDGs! Vol.5

えすでいじいず SDGsってなんだろう？ 4



ヤーリー書記長

あのさーSDGsって言葉ってなんなの？



かつぶし君

サステナブル・デベロップメント・ゴールズ (Sustainable Development Goals) のことです。

岡村先生



そう！ゴールは分かるよね？サッカーのゴールと同じだけど、ここでは最終目標ってとこかな。まずは先にデベロップメントから説明しよう。

デベロップメントとは開発って意味なんだけど、開発って聞くとビルを建てるとか考えてしまうけどね。ここでは広い意味で「豊かになる事」つまり「みんなの欲を満足させる」って考えておいて。

なるほどー！僕なんかだと「おかかおにぎりいっぱい食べたい！」とか「みんなとわいわい遊びたい！」とかかな？



なべともちゃん



かつぶし君！らしいわね。一人ひとりのみんなは違うけど、違いを大切に、みんなが得意な事で、みんなで豊かな人生になるという考え方がデベロップメントには入ってますわ。



サステナブルとは「続ける」とか「ずっと使えるようにする」とかの意味です。となるとサステナブル・デベロップメントとは何かな？

そうだね。簡単でいい答えだね

はい！！「僕たちの欲をずーと満たしてくれて豊かになる」って事でーす！！



やましろさん



ここで忘れていけないのは、そのために人を働けたり、踏みにじったりしてはダメです。未来の人にも迷惑をかけないでね

なんかSDGsってステキだなあ！！



SDGs! Vol.5

やっほ!

えすでいじいず SDGsってなんだろう？ 4

補足①

デベロップメントとは開発という意味なので山を崩す、建物を建てるという工事を伴う大規模工事というイメージがありますがここでは広い意味で「豊かになる」ことで、私（たち）の「ニーズ」欲求を満たすという解釈です。

「ニーズ」には経済的な需要だけでなく精神的、社会的、文化的な欲求が含まれます。また個人の潜在能力の発揮ができるような状態、環境をつくる事でもあります。

みんなのひとりひとりがもっている境遇とか能力はみんな異なります。持っている力をみんなができる状態にする。みんながそれぞれの能力を発揮して豊かに、より良い人生にする。という考え方がデベロップメントに含まれています。まとめると「みんな違ってみんないい、そして豊かになる」事がデベロップメントです。

この頭にサスティナブルがつくと私たちはニーズ欲求を満たしてデベロップメント（ゆたかに）していきたい。自分のニーズを満たすときに他の人が「ニーズ」を満たす能力を損なわない形で自分のニーズを満たす、満たし続ける。これがサスティナブルです。そして、ここには2つの公平性の考え方が隠されています。

1・世代内の公平 同時代に生きるすべての人々の公平

私が豊かになるために、他の人が犠牲になったり踏み台になったりしない

2・世代間の公平 将来世代を生きるすべての人々の公平

私とか同世代の他の人がゆたかになるために、次の世代が踏み台になったり、犠牲になったりしてはならない。

サスティナブルの意味にはこの2つの公平性を守る実現するという意味があります。つまりサスティナブル デベロップメントという考えがSDGsで大事にされているのは従来のデベロップメント、従来の豊かさでは2つの公平性に欠いてきたという事実があります。

SDGs! Vol.5

やります!

えすでいじいず SDGsってなんだろう? 4

補足②

たとえば環境の面だと先に我々が資源を使い切り、汚染を残す。格差の問題です。すでに豊かになった人がさらに豊かになりやすく、まだ豊かになっていない人が豊かになりづらく、さらに貧しくなる。

決して悪い社会をつくらうと思って豊かになろうとしたわけではないけど、どうもいままでのデベロップメント＝豊かへのなり方が2つの公平性からみるとサスティナブルではない、持続可能ではないということがSDGsの考えの根本にあります。

2030 アジェンダでは示した5Pの持続可能な開発の3側面を大事にしています。(「SDGsってなんだろう3補足①」の図)

経済 物質的な豊かさ
社会 人間の尊厳を満たす
環境 すべての生命の基盤



この3つを同時に達成するというのがSDGsの大事な考え方になります。

これがSDGsと2030アジェンダが目指すTransforming for Sustainable Development（持続可能な開発を実現するために私たちの世界を変革する）になります。



SDGs! Vol.6

えすでいじいず SDGsってなんだろう？ 5

#①

ほほほ
 みんなもSDGsの事がわかってきたかな？
 ようやく登場じゃ！ ぎゅいいいいいん！！



やなぎもと校長

それではやなぎもと校長も来たことですしSDGsの復習してみよう！
 みんな、17個のカラフルなゴールの事を覚えているかな？



岡村先生

はい、2030年までにみんなが描いた素敵な世界にするために169個の目標をクリアーして17個のゴールをめざします。
 そのために世界を作りかえる必要があります。



ヤーリー書記長

そうですね！さすがヤーリー書記長ですね。ここで大事な事を話します。
 それは「17個のゴールをすべて達成して1つ」です！！

全部のゴールで1つ・・・たいへんだあー



かつぶし君



なべともちゃん

もちろん、すべてクリアーするのは大変ですけど
 「シナジー」って言って「一つのゴールを目指していたら
 ついでに他のゴールもできた！」って事がありますわ

SDGs! Vol.6

やります!

えすでいじいず
SDGsってなんだろう? 5

#②

このゴールだけクリアしよう! ではダメで全部のゴールを
同時にクリアしていかないと意味がないということじゃよ



やなぎもと校長



山城さん

でも逆の「トレードオフ」
「あるゴールのクリアーが別のゴールの
じゃまをした」ってこともあるから気をつけて!

ほほほ
大事なのはゴールを目指す時は一つのゴールばかり
みてないで他のゴールについても注目して一緒に
クリアーしていこうってことじゃよ



!!
そっか! このゴールはやるけど、
あのゴールはやりたくないから
やらないとかはダメなのかあ

よーし あと10年で全部クリアー
しちゃおう! あとは、行動するだけだね!



これからもほくと一緒に
SDGsをやっていこう!!
よろしくね!

SDGs! Vol.6

やっます!

えすでいじいず SDGsってなんだろう? 5



SDGsのカラフルなアイコンを見ると関心があるものについてのみ、考えがちになりやすいですが、2030 アジェンダ (SDGsってなにだろう? 3 補足1) には「これは1つの統合的な目標です」と何度も強調されています。

つまり「各目標を同時に解決しなければならない。」ということです。「持続可能な開発」の実現のためには経済、社会、環境の3側面を同時に解決する必要があります。決してどれかだけ切り取っては意味がありません。(SDGsってなんだろう? 3 補足2)

そして、各目標の相互作用には2種類あり

- 1 シナジー (相乗効果)
ある目標を達成したら別の目標達成も達成できた。
- 2 トレードオフ (相克)
ある目標を達成が別も目標の達成のじゃまをした。できなくなった。

目標を考える時にそれぞれの目標についても着目する必要があり、トレードオフにならずにシナジーになるようにお互い両方が関わりながら高めていく必要があります。

あらためてSDGsとは17個のゴールの前に目指すべき世界像がある。それは「持続可能な世界のビジョン」であり、それをどうやって実現するのか? を具体的に描いたものがSDGsです。(SDGsってなんだろう1)

17個のゴールのアイコンに対して私たちの関連するものをただ当てはめるのではなく先に目指すべき世界像があって、それを実現するために最低限達成しなければいけない2030年までの目標です。

そのためには今の私たちがいる世界をどう変えて行くか? バックキャストिंगの視点で変革させていくことが大切です。(SDGsとは何か? 2 参照)

防災トライアングルプロジェクト・市特災害タイムライン

～家族の「命を守る行動」につながる

トライアングル事業継続計画（BCP）の作成～

千葉県立市原特別支援学校 P T A



1 はじめに

本校の所在地である千葉県市原市は、令和元年度の房総半島台風（台風15号）、東日本台風（台風19号）、千葉県豪雨（10月25日の大雨）の全てにおいて被害があり、御自宅から離れた生活を送っていた御家庭が複数ありました。

以下、被害の概要を整理します。

市原市における台風15号等の主な被害

【令和元年房総半島台風（台風15号）】

○顕著な被害 鉄柱倒壊（ゴルフ練習場）による住宅等への被害 長期の停電

- ・重軽症者 17名
- ・家屋損壊（全壊～一部損壊まで含） 6,871戸
- ・床上、床下浸水 6戸
- ・がけ崩れ 3箇所
- ・停電 最大66,800戸 最大15日間

【令和元年東日本台風（台風19号）】

○顕著な被害 突風（竜巻）による住宅等への被害

- ・死者 1名、重軽症者 13名
- ・家屋損壊（全壊～一部損壊まで含む） 3,750戸
- ・停電 最大29,900戸 最大4日間

【令和元年10月25日大雨（台風21号）】

○顕著な被害 がけ崩れや冠水による被害

- ・死者1名、重軽症者1名
- ・家屋損壊（全壊～一部損壊まで含む） 167戸
- ・床上、床下浸水 176戸
- ・がけ崩れ 146箇所
- ・停電 最大1,600戸 最大3日間

【重点課題④要配慮者の支援】

○対策の方向性

- ・避難所開設マニュアルの見直し、要配慮者の受け入れのための避難所資機材の充実
- ・福祉避難所開設ルールの特化と周知
- ・福祉避難所開設マニュアルの整備、開設訓練の実施
- ・医療・福祉施設における非常用電源の整備促進

※「令和元年台風第15号等への災害対応検証報告（概要版） 令和2年3月 千葉県市原市」より抜粋し追記

また、市原市は、丸10年を迎えた東日本大震災において、石油コンビナートの火災等があり、避難を要しました。それらの背景を踏まえて、PTAが防災活動に取り組み、発信をできないかと考え、本事業に取り組むことになりました。

2 学校の概要

学校は、昭和56年に創立し、本年度で40周年を迎えました。知的障害を対象とした小中高等

- I. 南房総地区の特別支援学校への視察によるヒアリング
- II. 家庭、福祉、教育の連携を目的にする、防災の視点で取り組む講演会の実施
- III. 児童生徒（家庭）と学校をつなぐ教材等の作成や準備（防災教育の内容を保護者と共有する）
- IV. 保護者・福祉事業所・南房総地区4校の特別支援学校へのアンケートの実施及び家庭、学校、福祉をつなげる事業継続計画の作成

4 実際の取り組み

I. 南房総地区の特別支援学校への視察によるヒアリング

千葉県は、いくつかの地区に分かれています。市原特別支援学校は、南房総地区に所属しています。南房総地区には、安房特別支援学校、君津特別支援学校、榎の実特別支援学校があります。

昨年度、千葉県立君津特別支援学校のPTA役員の方々に市原特別支援学校に来ていただき、防災をテーマとして交流を行いました。今年度は、君津特別支援学校と協力をして、防災講演会を実施しました。講演会の詳細は後で述べます。

これまで交流がなかった、榎の実特別支援学校へ11月27日に、安房特別支援学校へ11月30日に訪問し、視察によるヒアリングを行いました。

千葉県立榎の実特別支援学校

【質問：昨年度の台風を振り返って】

○学校の状況

- ・防風用の柵が壊れたり、ガラスが割れたりした。
- ・給食室の雨漏り等で2週間給食が提供できなかった。
アレルギー対応をしてくれるコンビニのお弁当や
PTAで購入した非常食（ハンバーグ等のおかずや
わかめ御飯等）で対応した。

○家庭の状況

- ・コンビニには何もなかったので、アクアラインを使って買い物に行った。
- ・キャンプの経験があると役立つ。
- ・停電が4日あった。通りの向こうは停電がなかった。土鍋でご飯を作ったが、子どもは楽しんでいようだった。
- ・瓦の屋根が飛んでシートと土のうで対応した。修理まで、7～8カ月かかった。
- ・台風が近づくと、「テープあるかな」「備蓄あるかな」と、備えの意識が高まった。
- ・放課後デイは、動かしてくれていた。
- ・思っているほどではなく、子どもは強かった。ないなりに適応し、慣れてくれた。ろうそく見てキャーキャーしていた。逆に力をももらった。生きる力をもっていると思った。

【質問：感染症対策と防災について】

- ・先生たちが必死に努力をしてくれて、みんな元気に登校している。子どもたちは、手を洗えるようになったり、マスクができるようになったり、できることが増えた。
- ・マスクや手洗い、人混みに行かない。消毒をするなど、家庭でも行っている。
- ・シャチハタのインクが消えるまで手洗いをするのを学校でもやってくれている。「こうや



榎の実特別支援学校HPより

ってやるんだよ」と見せてくれて、成長していると感じる。

- ・休校中、つまらないと言っていたが、比較的落ち着いていた。
- ・役員会が中心となったPTA活動だったが、座談会形式にしていろいろな話ができるようにしたことで、やってよかったと思えるような活動になっている。
- ・学校は、感染症下でも月1回のワンポイント避難訓練を行っている（地震、火災、不審者）。
- ・昨年、全県で行えなかった、駅伝大会を地区で行ってとてもよかった。縮小して地区ごとに行事ができるとよいと思う。

【質問：保護者、福祉、学校の三者の連携について】

- ・放課後デイと学校との支援の共有がもっとできると、子どもがもっと伸びると思う。
- ・三角巾を自分でしぼることを、放課後デイの計画に入れてくれている。学校にも伝えて見てもらっている。どちらかだけで、できるのではなく、両方でできてほしい。ほめる機会も増えて、伸びると思う。
- ・放課後デイから学校に、様子を見にきていいですか？という問い合わせもある。
- ・PTAで取り組んでいる防災は今のところないが、PTAの会費をうまく使って、安全な学校を作してほしい。
- ・学校は、今のところ福祉避難所にはなっていない。築42年経っていて、老朽化もある。

千葉県立安房特別支援学校

【質問：昨年度の台風を振り返って】

○学校の状況

- ・スクールバスが入る昇降口付近の屋根の一部が破損してしまった。
- ・学校周辺でがけ崩れがあり、「山登りの活動」がしばらくできなかった。
- ・停電が1週間あり、5日間休校した。
- ・海沿いにある分校は、ガラスが割れて、資料が濡れてしまった。

○家庭の状況

- ・母屋が半壊してしまい、修理はまだこれからとなっている。今も屋根にブルーシートの家が残っている。
- ・携帯の機種によっては、電波が入らなかった。電波が入るところまで、移動をする必要があった。
- ・放課後デイは、やっているところとやっていないところがあった。ケアマネさんから「どうですか？」と連絡が入った。
- ・電柱が倒れたりもした。停電でスーパーのレジが使えない状態だった。信号が付いていなかった。
- ・ガソリン購入の制限があった（100）。
- ・ライフラインが寸断され、自衛隊も来ていた。
- ・1日目の食料は、あるものでしのいだ。
- ・広報の放送がなかなか聞こえず、情報が入らなかった。



安房特別支援学校HPより

【質問：感染症対策と防災について】

- ・消毒液やマスクの不足が困った。
- ・特に学校以外の場所で、子どものこだわりやルールについて、親の一工夫が必要だった。
(マスクの使い方や消毒液の感覚過敏等)
- ・学校行事の変更の理解が難しかった(離任式がなくなり、お礼が言えない等)。
- ・新しい挑戦が楽しくなるようにする必要がある。
- ・今年の台風時は、ラジオがおもしろいと感じていた様子であった。相撲が好きで、ちょうど中継をしていた。

【質問：保護者、福祉、学校の三者の連携について】

- ・学校を会場にして、自立支援協議会の会議を行っている。
 - ・この地域には、福祉避難所がなく、一般の避難所に行くことをためらってしまう。
 - ・災害時等に、「迎えに来て」と言われても共働きのため、すぐに対応できない。連携の不安がある。
 - ・ライフラインが使えない時に、「助けて」と言えるようにすることが大切。
 - ・皆が共通して分かる情報として、コミュニケーションボードやピクトグラムがあるとよい。
 - ・子どもは、ヘルプマークを持っている。
 - ・個人情報の問題もあるけれど、我が子の支援の方法が誰でも分かるようにできるとよい。
- ヒアリングは、感染症対応として、できるだけ少ない人数で、1時間以内で終わるようにしました。対応をしていただいた、両校のPTA会長や役員、教頭先生、ありがとうございました。

II. 家庭、福祉、教育の連携を目的にする、防災の視点で取り組む講演会の実施

市原特別支援学校PTA防災教育講演会として、以下の内容で参加者を募り、実施をしました。この講演会は、昨年度、防災をテーマに交流をした、千葉県立君津特別支援学校と協力をして実施をしました。安房特別支援学校、槇の実特別支援学校からも参加をしてくださいました。



君津特別支援学校HPより

テーマを、「家庭における障がい児の防災・安全教育」という内容として、危機管理教育研究所の代表である、国崎 信江 氏を講師に招いて、下記の日程等で実施をしました。

日 時：令和2年12月2日(水) 10:30～12:00

場 所：五井グランドホテル 2F飛輪の間

対象者：南房総地区の家庭・福祉・教育に携わる方

ホテルと連携して感染症対策を徹底し、実施しました。講師を含めて51名の参加者がありました。

講演では、気象災害や地震の備えについての知識や心構えについて、映像等を交えながら分かりやすく教えていただきました。また、行政依存の防災では、被害を減らすことはできず、子どもと共に家庭で防災を学ぶことが大切であること。家庭と福祉、教育が防災をテーマに連携した取り組みをするための「FMBOX(ファーストミッション・ボックス)」の普及が必要であることなど、たくさんの示唆をいただきました。



講演会の様子



感染症対策として1テーブル一人



国崎信江氏（危機管理
教育研究所HPより）

参加者アンケートの結果を一部紹介します（回答数40）。

【質問：時期、方法】

- ・今年にはコロナがあったため仕方ないと思いますが、もう少し早い時期（夏～秋くらい）が良かったかと思いました。
- ・コロナの中で大変だったと思います。この時期での講演会、良いのではと思います。
- ・机は、ひとり1台確保されているとコロナの中でも安心です。

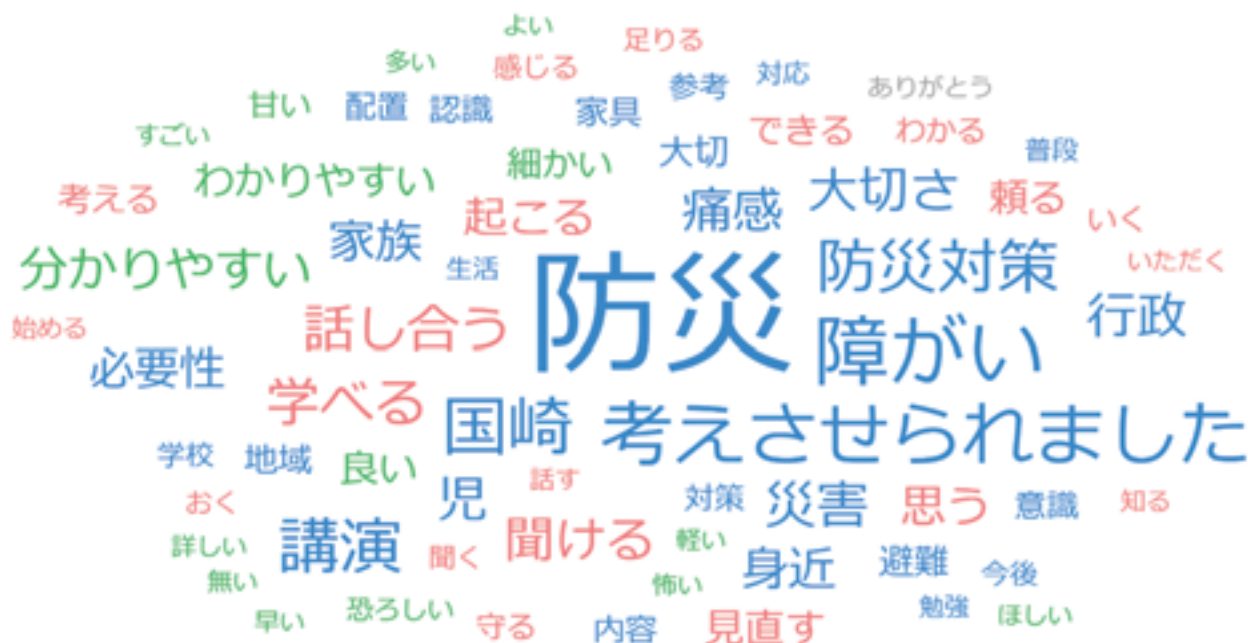
【質問：講演内容について（自由記述）】

- ・家は雨戸があるので窓ガラスは気にしたことがなかったが、学校や外出時のことを考えると、とても勉強になりました。
- ・家具の中身の飛び出し対策はしていないので、これからはじめようと思います。
- ・映像の資料がとても分かりやすく、認識の甘さを痛感しました。非常時持ち出し袋の話の中で、家族の写真は言葉のない子供がはぐれた時にとっても大切だなと思いました。リュックではなく、ベストもより良い選択だと思いました。
- ・ハザードマップ、今まであまり気にしていなかったけれど、あらかじめ確認し、知っておくことが大切だと思った。
- ・下水システムや排水能力など全く気にしたことがなかったので少し意識したいと思う。
- ・いつ起こるか分からない災害ですが、大切な家族を守るために、起こっても対応できるよう、事前準備、日常化にしていくこと、沢山のことを気付かせていただきました。わかっているも…なんて言っていられませんね。今日から取り組みたいと思いました。
- ・いつ災害が起こるか分からないが、人に頼らずもっと気を配り、普段から準備、用意をしておく。思っていたよりかなり甘かった。今まで以上に今日の講演は良かったです。特に考えさせられました。
- ・地震の時、キャスター付きの軽いものでも凶器になってしまう動画を見て、安全な所がないなど考えた。家に帰ってもう一度家中を点検しないといけないと思いました。
- ・今まで考えていた防災知識では足りず、危機が迫っているのだと痛感しました。今日、家に帰ってすぐにできることをやってみようと思います。防災教育に力を入れるべきだと本当に感じました。
- ・地域との繋がりが大切なことがよくわかった。支援の対策作りが想像できて良かった。未来ある子供を救う手立てがわかった。
- ・いつも生活している中で気をつけていることでも、もう少し細かくみていく必要性を感じ

ました。家具の配置も見直し、いらぬものは捨てていきます。事業所としてはいざという時の対応について、いろいろな面を話し合っで細かく見ていきたく思います。

- ・防災について、他に頼るよりまず自分で。そして家庭でということの大事さを改めて考えさせられました。家、学校、地域についてもう一度よく調べようと思ひました。

講演内容について、テキストマイニングの分析を行って見ました。



【質問：障がい児の命を守るために、関係機関の連携において、必要なこと（自由記述）】

- ・まずは平時からの「顔の見える関係の構築」
- ・もっと密に連携が必要だと思った。地域とつながることが大事だということはわかるが、障がいがあるという点で外に出たくないと思う。もっと受け入れ側も受け入れやすい環境を作って頂ければと思ひました。
- ・小児用の応急手当の講習を学校で開いてほしい。（教員、保護者対象）
- ・避難した際に障がいがあることを周囲にわかるようにする。（特に多動がある場合）
- ・福祉の場でもファーストミッションBOXが広まると良いと思ひます。
- ・地域の防災訓練に参加すること。そこで情報を共有すること。さらには施設職員もその訓練に参加し、専門的な知識を生かして防災に役立てることが必要だと感じました。
- ・平素の隣近所の付き合いが大切と思ひますが、それが出来ていない家庭が多くみられる。いざという時の為に近所の人と親しくしておいたほうが得です。行政に助けを求めても早い対応ができない事が多い。
- ・地域や近所、様々な所と関わりをもっていくことが大事である。一緒に経験して意識を高めることも必要ですね。（繰り返すことも）
- ・まず親も子も他者（近所）との関わりをこまめにもつこと。どうしても子の特性から関わりを避けているところがあるので…“戦略的に“という言葉に、なるほど！と考えさせられました。
- ・障がい者＝例外ではなく、何らかの障がいがあるものとして考えてもらえるようなシス

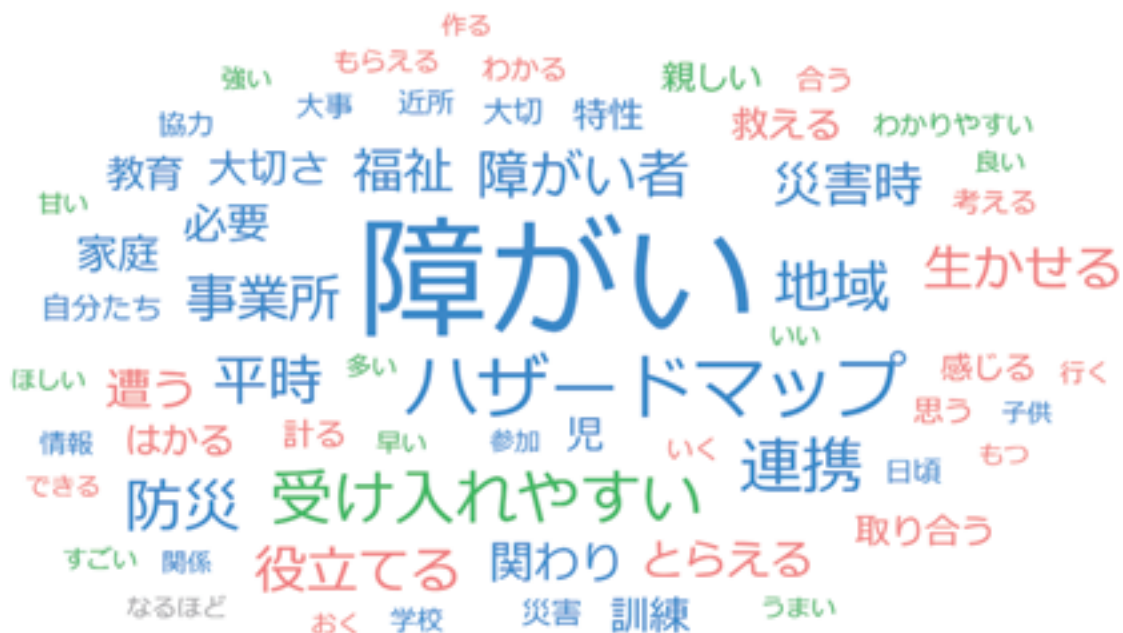
テムならいいのにと思いました。(うまく説明できず申し訳ありません)

- ・障がい児が、生活圏及び移動範囲での人たちに理解してもらえることが重要である。もっと県民、全国民に対するアピールと協力、努力が必要と思う。
- ・障がいの程度もあると思いますが、その子個人の必要なこと、物など対応が必要であり、学校、家庭、地域等の連携の大切さを昨年の台風で強く感じました。自然災害だけでなく、今回のコロナなどの感染症等への教育も必要になってきています。教育も必要ですが、その教育が生かせるように訓練も必要だと感じました。ハザードマップは作られています、それが障がい児達にも合ったものなのか？も考え、自分達のハザードマップを作ることも大切だと思っています。
- ・一人一人の実態がわかるように、地域との連携を図らないといけないと感じた。
- ・FM実行カードをわかりやすく作ること。子供は自分のことを表現できないので、親が代弁しているように相手にわかってもらえるように記入したいと思います。
- ・“向こう隣 両三軒”という言葉があるが、やはり地域との交流が必要と考える。そして避難所などに行ったら、福祉関係との連携をとりたい。
- ・家庭や学校、市役所や事業所、福祉事業所など、平時から災害時に向けてのマニュアル作りなど、官民一体となった共通の認識を学ぶ場がもっと必要だと思います。
- ・各機関と平日頃防災に関して情報を共有しておくことが必要ではないかと思いました。また、ハザードマップ、防災グッズの重要性を感じました。
- ・障がい児が地域の人と関わり合い、知り合って多くの方に理解していただくことが大切だと感じました。
- ・シミュレーション、訓練等、参加していかなければならない。いつ、何時、災害に遭うかわからないので、いろいろなシチュエーションを考え、その子の特性を考えて訓練等を行っていく機会を学校に提案していきたいと思います。
- ・防災の大切さがわかった。見える化を計って大事なものを救えたら良いと思った。
- ・共に子供と話合うことが大切。子供の気持ちのサポートができるように連携していく。
- ・災害時には、どうしたら良いかわからなくなるので、大事なことはメモしてわかるようにしておく。これを機にもう一度資料を見直し、身の周りの整理もしたい。
- ・気候変動の影響から様々な災害が起こる時代。家庭での防災教育や対策が一番大切。自分の家族を守るために情報をとらえ、的確に判断する。今回講演を聴いて本当に自分の今の状況が甘いと思いました。
- ・被害に遭わないために気象情報を参考に学校に行かせないことを最初に考える必要があると感じました。
- ・連携も大事だが、まず自分たちでできることを考え、また必要なこと、情報等を発信することが大事なかなと思いました。自分たちも協力できることに進んで協力したいです。
- ・独居老人への地域の登録があるかと思いますが、障がい児においても地域連携は必要かと思っています。(地区別の登録など)やはり地域コミュニティはすごく大事かと思っています。

アンケートの結果から、時期や内容、感染症対策を含む実施方法については、ほぼ良いという意見をいただきました。顔の見える関係や連携を、感染症対策に配慮しながら継続していくことが、防災意識の高まりにつながると思います。今後、防災対策について、障がい児支援により特

化した研修を行っていく必要があるという意見も複数ありました。

関係機関の連携について、いただいた御意見をテキストマイニングで分析を行ってみました。



Ⅲ. 児童生徒(家庭)と学校をつなぐ教材等の作成や準備(防災教育の内容を保護者と共有する)

これまでは、学校から、地域の避難所を見に行くことや、台風の教訓からランタンを作ってみること等が、宿題として夏休みに出され、防災教育の共有が行われていました。今年度は、PTAで防災リュックの袋を購入して、担任の先生の協力を得ながら、子どもに合ったリュックの中身を考え、備えるようにしました。次年度の新入生についても、随時購入をしていくこととなりました。備えを充実させていきたいと思えます。



9月14日に、以下の内容をPTA会員あてに伝え、準備をしてもらいました。

昨年度のこの時季に、台風や大雨により大きな被害を受けたことが、昨日のこのように思い出されます。さて、これまでは、学校行事の後に景品として、ハンドタオル等をお渡ししていました。今年度は、大雨等により引き渡しや宿泊することとなった際に、学校で落ち着いて安心して過ごせるように、PTAから防災リュックをお渡しますので御確認ください。

防災リュックの中身は、お子さんに合った物を御用意いただき、学校に持たせてください。夏休みに職員は、防災の研修をしていますので、担任の先生と相談していただいても結構です。訪問による指導のお子さんについては、家庭の備えの一つとして、御活用ください。

参考までに、「防災リュックの中身の例」について、資料を掲載します。

<防災リュックの中身の例>

○一般的なもの

- ・保存水や非常食（一般的な備蓄は学校にあります。アレルギー対応等、必要に応じて）
- ・手回し充電ライトやラジオ
- ・ホイッスル（防犯、居場所を知らせる）
- ・アルミブランケット（冬季対策）
- ・レインコートや大きなポリ袋（雨対応）
- ・歯磨きシート
- ・ガーゼや三角巾（布マスクが代用できることもあります）

※マスク（ほこりや感染症対策）

※簡易トイレと消臭剤（水が使えなくなった場合）

※ウェットティッシュや水に流せるティッシュ

注）感染症（衛生）対策につながるものは、コロナ禍の時代、必須になります。

○個に応じたもの

- ・アイマスク、耳栓（周囲の音等が気になる方）
- ・お気に入りのグッズ（落ち着いて過ごせるように）
- ・宿泊を想定した、エアークッション（枕など）

※参考ホームページ「危機管理教育研究所 防災ベスト」

「全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会 防災部会」

これまで、PTA会費で協力をしてきたものを、紹介します。防災倉庫には、非常用の水や食料があります。また、ヘルメット等もPTAで購入をしました。

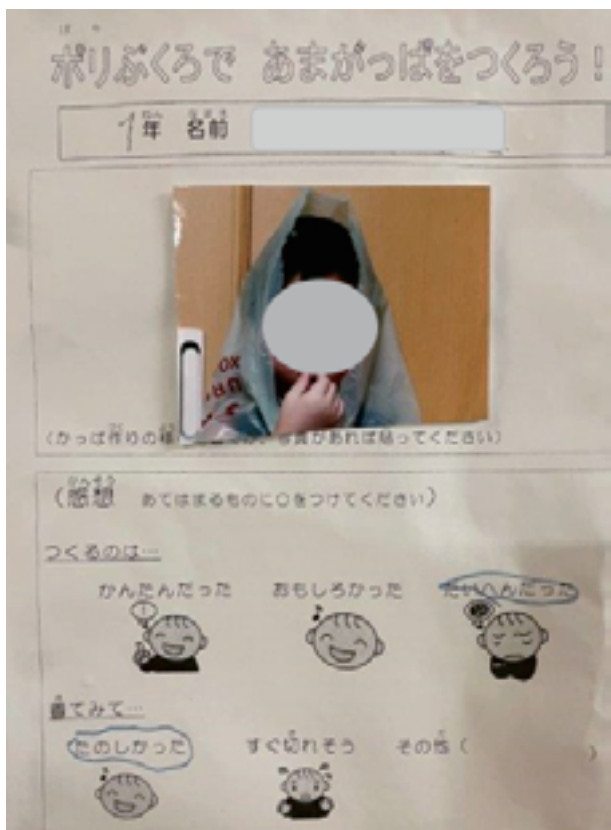


防災倉庫にPTAで購入した水や非常食の保管

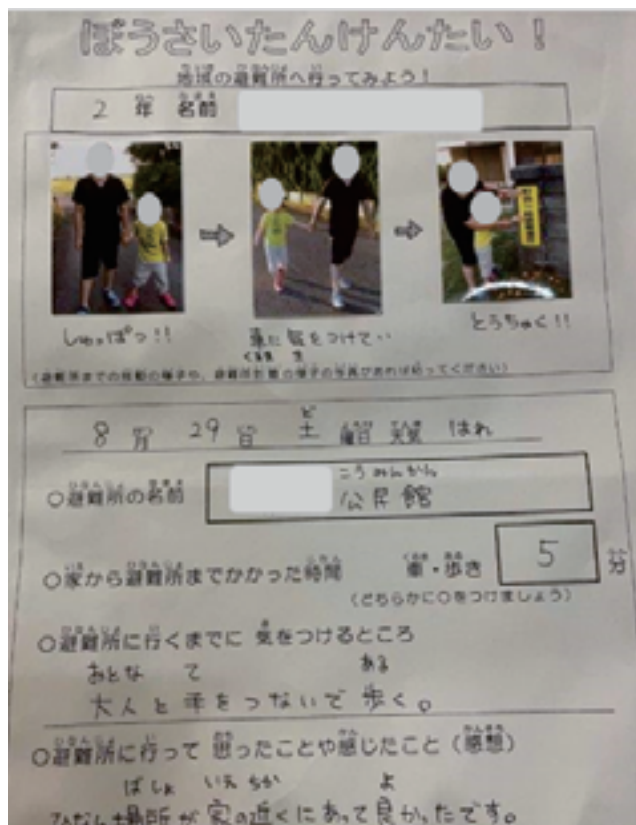


PTAでヘルメットの購入

夏休みの宿題として、学校からいくつか紹介された内容から、家庭で取り組んだ防災学習の様子を、一部紹介します。また、防災リュックの中身についても、一部紹介します。



ポリぶくろで あまがっぱをつくろう！



ぼうさい たんけんたい！



ペットボトルランタンをつくろう！



防災リュックの中身



防災リュックの中身

IV. 保護者・福祉事業所・南房総地区4校の特別支援学校へのアンケートの実施

家庭、学校、福祉をつなげる事業継続計画の基礎資料とするため、南房総地区の4つの特別支援学校の全保護者や関係する福祉事業所、市原特別支援学校の職員に御協力をいただき、アンケートを実施しました。

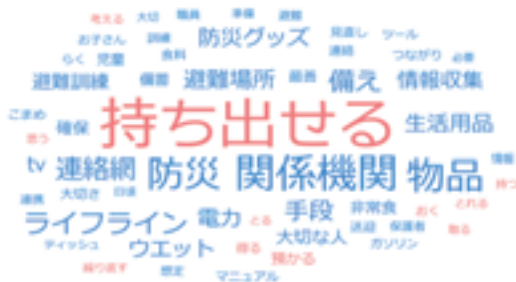
- 回答数 市原特別支援学校本校・分校 161名
- 君津特別支援学校 130名
- 楨の実特別支援学校 36名
- 安房特別支援学校 90名
- 福祉事業所 23施設
- 市原特別支援学校職員 個人及びグループ回答

これまでと同様にテキストマイニングで分析をしました。以下に、結果を示します。なお、
 < >に書かれている言葉は、タイトルとして考えてみました。

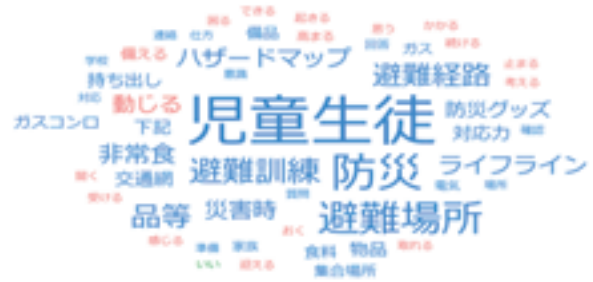
【質問：東日本大震災後、今後の備えとして、何が大切だと思いましたか】



保護者の回答<食料などの備蓄>

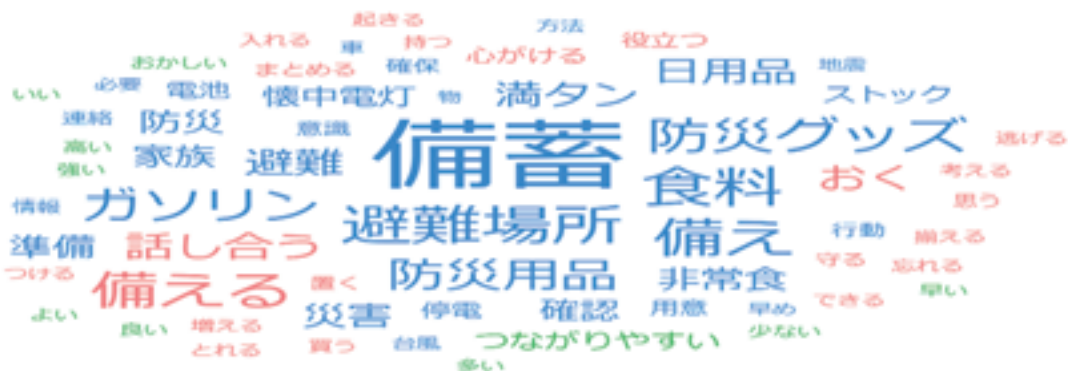


福祉事業所の回答<避難訓練の繰り返し>

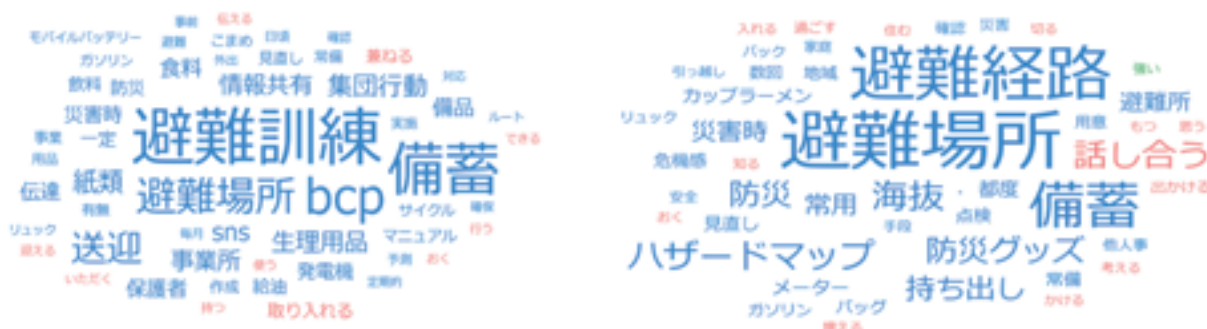


職員の回答<非常用の防災バッグ>

【質問：東日本大震災の教訓が、今の行動や備えにつながっていることはありますか】



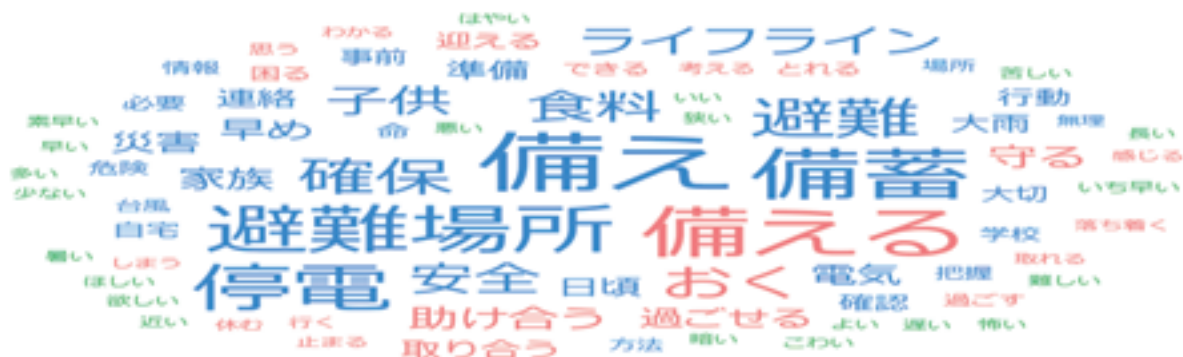
保護者の回答<防災用品などの備え>



福祉事業所の回答<災害時の事業の継続>

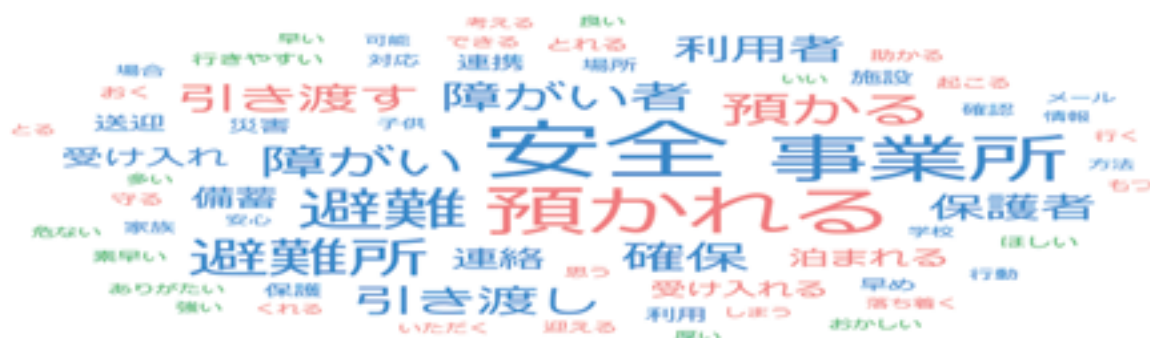
職員の回答<地域の避難場所や避難経路の確認>

【質問：令和元年の台風や大雨を振り返って、保護者の視点で大切だと思うことは何ですか】



保護者の回答<親が子どもに安心感>

【質問：令和元年の台風や大雨を振り返って、福祉事業所の視点で大切だと思うことは何ですか】

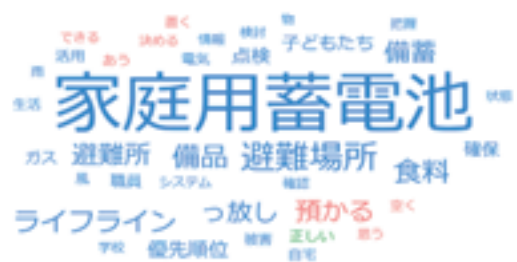
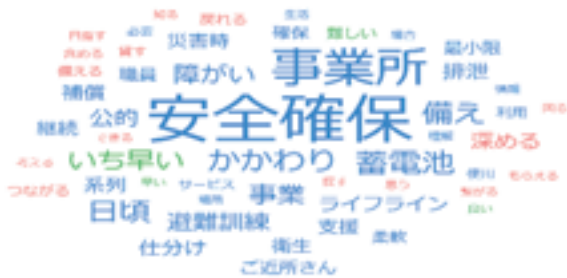


保護者の回答<安全の確保>

【質問：災害時、現在の生活や事業を継続するために、大切となることを記入してください】



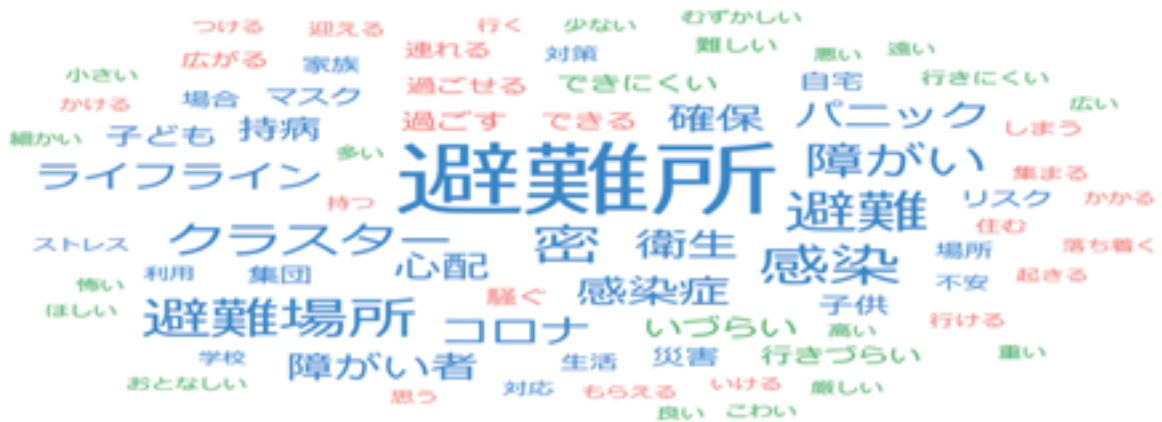
保護者の回答<家族の安全を確認する>



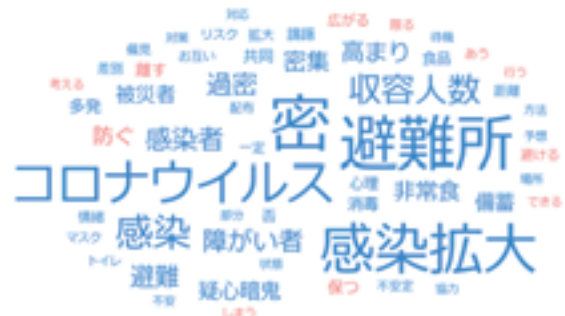
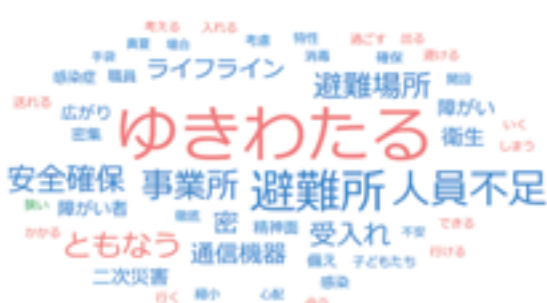
福祉事業所の回答<地域とのかかわり>

職員の回答<備蓄や避難場所の確認>

【質問：新型コロナウイルス感染症の心配がある中、地震や台風等、大規模災害が起きた時に、心配となることは何ですか】



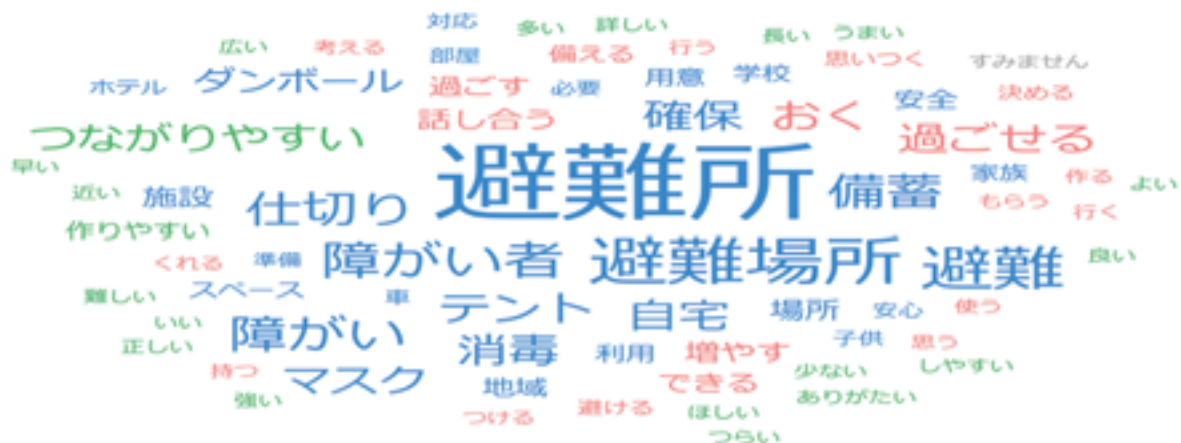
保護者の回答<自宅で過ごせなくなった時に避難できるか>



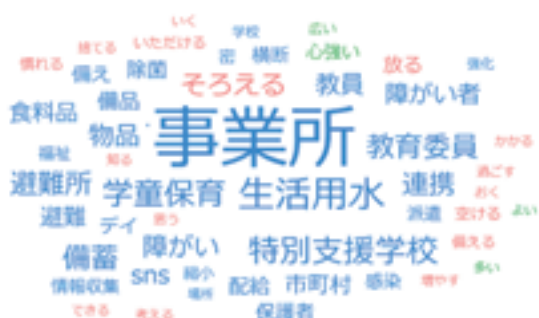
福祉事業所の回答<避難所の密と人員不足>

職員の回答<三密を避けつつ被災者が避難できるか>

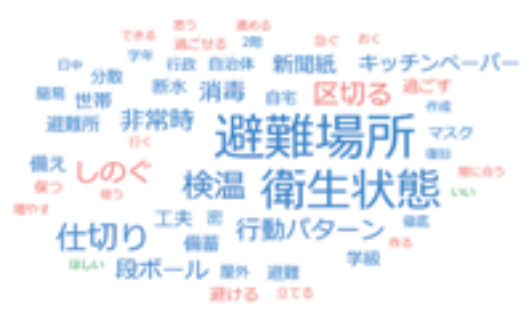
【質問：新型コロナウイルス感染症の心配がある中、地震や台風等、大規模災害が起きた時に、心配を減らすための具体的なアイデアはありますか】



保護者の回答<ホテル等が避難場所として泊まれるようにする>



福祉事業所の回答<テント等を利用する>

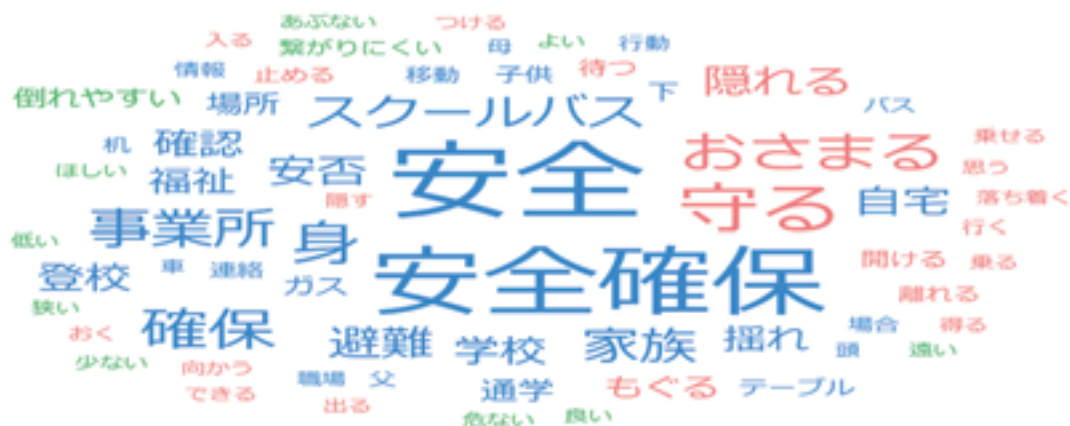


職員の回答<密を避け衛生状態を良くする>

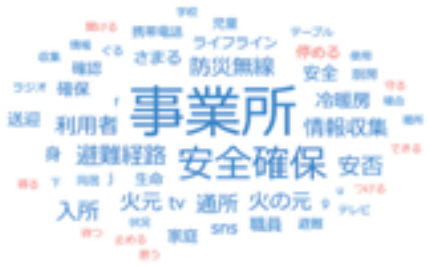
【質問：「タイムライン」という言葉をよく耳にするようになったと思います。災害に備えて、時系列に沿って、どのような対応をしようか、事前に考えておくことが、備えにつながるということで進められています。以下について、考えられることを記入してください。想像できる範囲でかまいません】

<想定>朝8時に震度6弱の地震が発生し、公共の交通機関はストップ、一部道路の陥没。

●地震発生の瞬間



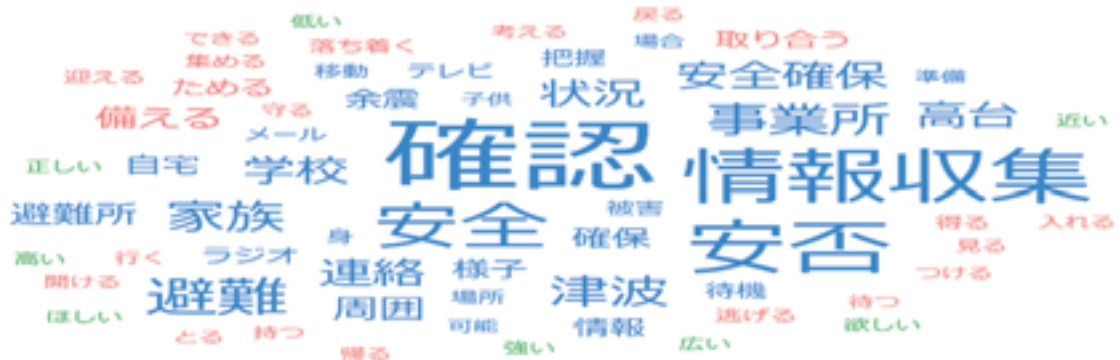
保護者の回答<身を守る>



福祉事業所の回答<入所利用者の安全確保>

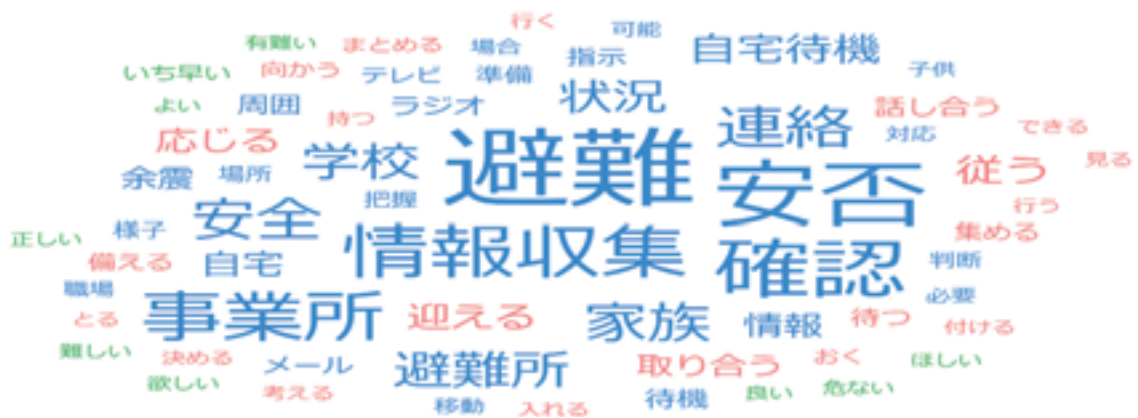
職員の回答<スクールバス、出勤途中の職員の安全>

●地震直後（揺れがおさまった後～10分後）



保護者の回答<周囲の状況の確認>

●地震後の8時10分～9時



保護者の回答<子どもや家族の安否>

●迎えや二次避難について



保護者の回答<情報に基づき判断する>

V. まとめ

以上の取り組みから、タイムラインの考え方を使って、以下のトライアングル事業継続計画を作成しました。

市特災害タイムラインによるトライアングル事業継続計画（案） 災害種＜地震、風水害等＞

時系列	福祉事業所	家族 児童生徒・保護者	学校	地域防災計画 地区防災計画
災害前 長期的視点 ・各々で ・連携で	・BCPの作成 ・サービス等利用計画へ 災害時の対応を記載	P T A 新入生の防災リュック購入 ライフサポートファイルに防災の項目を加える P T A 障がい児の防災教育について研修	・地区の学校間の連携	・計画を見直す仕組み
すぐできること ・各々で ・連携で	連絡会の参加	・食器の飛び出し対応 ・寝室の家具の固定	・ショート訓練の実施 連絡会の実施	福祉避難所運営訓練 地区防災計画の共有
災害時 その時	・利用者の安全確保	・家で身を守る ・離れている場合、各々の 場所で身を守る	・土日や休日の大規模災害時の 連絡方法の確立	防災無線等で情報共有
災害直後 の情報収集	・安否確認 ・情報収集 ・立地に応じた対応	・安否確認 ・情報収集	・安否確認 ・学校及び地域の被害 状況等情報収集	
災害後の判断 とどまる(在宅)か OR 二次避難か	・多様な情報から判断	・多様な情報から 総合的に判断 ・自宅を離れる場合の 防犯対策	・学校から離れる可能性 があるのは火災時のみ	・各課間の連携 福祉避難所開設検討
災害後72時間 各々の生活や事業 の継続と再開	・マニュアルに沿った対応 ・障がい児の生活支援 家族支援 ・事業所の再開	・受援力 ・近所、共助、公助 情報の共有 P T A として できることの検討 ・日常生活の再開	・マニュアルに沿った対応 ・学校待機・引き渡し計画 (電気・ガス・水道・電話・ 通信利用不能時) ・学校継続・再開計画 ・学習保障の対応 ・学校の再開	・ブルーシートの配 付やり災証明発行等 ・県との連携 ・行政機関の維持等

コロナ禍ではありましたが、感染症対策を講じながら、できるだけ顔の見える取り組みを実施したことで、地域の連携を深めることができたと感じています。御協力いただいた関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による災害が終息した際には、三者が一堂に介して集まり、タイムラインの考え方を使って作成した、トライアングル事業継続計画（BCP）を検証できる日が来ることを願っています。

資料1

PTA会員様

令和元年10月16日

台風15号と台風19号の対応について（アンケート御協力をお願い）

台風15号及び19号により家屋の被害があり、御自宅で生活できていない方もいると聞いています。心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早く日常生活が取り戻せることを願っております。さて、今回の二つの台風による被害の状況を把握し、子どもたちが安全で安心な学校生活を送るための資料として、以下の2点を目的としアンケートを取らせていただきたいと思います。

○飲食の備蓄やヘルメットの整備等をしてきたが、備えの部分で今後、PTAの防災活動としてできることを検討する。

○本校は福祉避難所に指定されているが、市から開設の要請がなかった。開設の手順や、今後の福祉避難所としての在り方を再検討するための基礎資料とする。

つきましては、別紙に御記入いただき、10月末日までに学級担任へ提出していただきますようお願いいたします。

台風15号と台風19号の対応について

○被害はありましたか（いずれかに○） ※怪我、家屋等

15号・なかった ・あった：内容（ ）

19号・なかった ・あった：内容（ ）

○避難について（いずれかに○）

15号・した 場所（ ）

・しようと思ったがしなかった、できなかった理由（ ）

・必要なかった

19号・した 場所（ ）

・しようと思ったがしなかった、できなかった理由（ ）

・必要なかった

○よかったこと（備えや協力、制度等）

・物の備え（自助）（ ）

・人とのつながり・福祉施設の協力（共助・近所）（ ）

・行政の協力・制度（公助）（ ）

○今後の課題や思うこと（自由記述）

Blank box for future topics or thoughts.

○お子さんの様子

Blank box for children's condition.

保護者 様

千葉県立市原特別支援学校
校 長 庄 司 喜 昭

福祉避難所としての対応について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、教育活動に御理解と御協力いただき感謝申し上げます。

さて、本校は福祉避難所として、平成 2 7 年 3 月に、市原市と協定を結んでいますが、昨年度の台風や大雨では、避難希望者がいたにもかかわらず、福祉避難所として開設がされなかったということがありました。その反省から、市原市と協議を重ねてきた結果、以下のように対応を確認しました。今後、協定書の見直しも行います。

開設にあたっては、市の職員と連携して開設することになりますが、事前に避難の可能性について確認し、現在あるマニュアルを改訂します。避難についての確認票への記入をお願いいたします。

引き続き、安全で安心な学校づくりに向けて、御理解と御協力をお願いいたします。

福祉避難所開設までの流れ

市原市の警戒レベル 3 の避難情報発令（避難準備・高齢者等避難開始）が発令後、学校から本校児童生徒へ直接避難が可能であることをメールで知らせる。

準備が整い避難者が来た時点で、市原市が福祉避難所を開設したことを周知する。
※福祉避難所は本校児童生徒のみが対象ではありませんが、本校児童生徒を優先し受け入れるための措置です。

市原市の職員と学校が協力して福祉避難所の運営にあたる。

注) これまでは、一般の避難所から、申し出があった場合、福祉避難所を開設し、移送するということになっていました。昨年度の反省を受けて、本校をモデルとし、市原市内全体の福祉避難所の在り方を検討していくことになっています。

———キリトリ———

避難についての確認票

※記入し提出をお願いします。目安で結構です。 担任→主事→教頭

学部（ 小 中 高 ） 学年・学級（ ） 児童生徒氏名（ ）

○風水害（台風、大雨など）等により避難情報が発令された場合 ※いずれかに○

- ・在宅避難が可能である ()
- ・親戚や友人等の家へ避難する ()
- ・校内敷地内での車中避難を希望 () →
- ・校内への避難を希望する () →

※避難を希望する場合の
家族の人数 (人)

※感染症のリスクを避けるため、車中避難を設けました。

資料3

千葉県立市原特別支援学校PTA 災害対応アンケート

○災害時に家庭と福祉と学校をつなぐために、何ができるかを考えていきたいと思ひます。

以下につきまして、御回答をお願いいたします。

1 回答者 : 保護者 福祉事業所関係者 学校関係者 (いずれかに○)

2 所属 : _____ 特別支援学校 (学区の福祉事業所)

3 東日本大震災を振り返って

・あなたは、どこで、どのようにしていましたか

()

・東日本大震災後、今後の備えとして、何が大切だと思ひましたか

()

・東日本大震災の教訓が、今の行動や備えにつながっていることはありますか

()

4 令和元年の台風や大雨を振り返って、それぞれの視点で大切だと思ひすることは何ですか

(御自身のお立場に加えて、他の立場についても御意見をお願いします。)

・保護者として

()

・福祉事業所として

()

・学校として

()

・三者の連携(つながり)として

()

5 「BCP」という用語を御存知ですか？

・はい いいえ (いずれかに○)

・BCP (Business continuity planning) は事業継続計画と訳され、災害時等に会社が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画で、福祉事業所や学校でも応用され始めています。あなたの立場で、災害時、現在の生活や事業を継続するために、大切となることを記入してください。

()

6 新型コロナウイルス感染症の心配がある中、地震や台風等、大規模災害が起きた時に、心配

となることは何ですか。また、心配を減らすための具体的なアイデアはありますか(自助、共助、公助等の視点から)。

・心配となること

()

・アイデア

()

7 「タイムライン」という言葉をよく耳にするようになったと思います。災害に備えて、時系列に沿って、どのような対応をしようか、事前に考えておくことが、備えにつながるということで進められています。以下について、考えられることを記入してください。想像できる範囲でかまいません。ご自身の所属以外についても、必要と思われることがあれば記入をお願いします。

○朝8時に震度6弱の地震が発生し、公共の交通機関はストップ、一部道路の陥没がある。

時 間	立 場		
	家 族	福祉事業所	学 校
朝8時 「地震発生の瞬間」			
揺れがおさまった後 から8時10分頃 「地震直後」			
8時10分から9時			
迎えや二次避難について			

○朝は大丈夫であったが、天気が急変し、午後1時に大雨の特別警報が発令された。

時 間	立 場		
	家 族	福祉事業所	学 校
午後1時 大雨特別警報			
学校の下校時刻まで (引き渡しの連絡が 入った)			
迎えや二次避難について			